

沼津高専だより

第102号
 平成25年3月11日発行
 独立行政法人国立高等専門学校機構
 沼津工業高等専門学校
 〒410-8501 沼津市大岡3600
 TEL <055> 921-2700



第47回 高専祭

テーマ『50th Kiseki』

～沼津高専全学生による人文字アート～



題字：柳下福蔵 学校長

☆沼津高専 ホームページアドレス (URL) <http://www.numazu-ct.ac.jp/>

目次

☆沼津工業高等専門学校 の 目的、教育目標、養成すべき人材像、学生受入方針	
☆校長・副校長・校長補佐から（平成24年度総評）	
沼津高専の教育改革	学校長 柳下 福藏 …… 4
教育改革元年を振り返って	副校長（教務主事） 蓮 實文彦 …… 4
平成24年度を振り返って	校長補佐（学生主事） 大久保清美 …… 5
平成24年度総評	校長補佐（寮務主事） 遠藤良樹 …… 6
平成24年度を振り返って	校長補佐（専攻科長） 遠山和之 …… 6
混合学級と学際教育の導入：平成24年度総評	校長補佐（学際教育担当） 押川達夫 …… 7
☆各学科から（平成24年度総評）	
この1年を振り返って	機械工学科長 小林隆志 …… 8
平成24年度を振り返って	電気電子工学科長 佐藤憲史 …… 8
平成24年度末にあたって	電子制御工学科長 川上 誠 …… 9
制御情報工学科平成24年度を振り返って	制御情報工学科長 長谷賢治 …… 10
物質工学科の平成24年度を振り返って	物質工学科長 芳野恭士 …… 11
平成24年度を終えるにあたり	教養科長 西垣誠一 …… 11
☆国際交流室から	
この一年の国際交流活動について	国際交流室長 鈴木久博 …… 12
☆部活動	
第47回「全国高等専門学校体育大会」成績一覧	13
第50回「東海地区国立高等専門学校体育大会」成績一覧	13
全国大会出場報告	14
全国高専大会を経験して	陸上競技部 伊庭達哉 …… 14
感謝	テニス部 高橋一将 …… 14
バドミントン全国高専大会に出場して	バドミントン部 遠藤みのり …… 15
今年度の水泳部を振り返って	水泳部 渡辺彩夏 …… 15
☆行事・コンテスト・その他イベント	
●創立50周年記念事業	
盛大に挙行された「創立50周年記念事業」	創立50周年事業実行委員長 柳下 福藏 …… 16
●体育祭	
体育祭のあり方 体育祭実行委員長	機械工学科3年 鈴木 陽 …… 17
●高専祭	
高専祭を終えて 高専祭実行委員長	物質工学科5年 後藤詩織 …… 17
●3年スキー合宿研修	
3年生合宿研修報告	3学年合宿研修担当 長澤正氏 …… 18
●ロボットコンテスト2012	
ロボコン部のアルミ色の青春	ロボコン部顧問教員 青木悠祐 …… 19
「勝つ」ために	ロボコン部 福井慧賀 …… 19
☆退職教職員から	
海外へ目を向けて	制御情報工学科 大島 茂 …… 20
想い出	技術長 石和嘉衛 …… 21
☆卒業生・修了生から	
かけがえのない5年間	機械工学科5年 大坂邦彦 …… 21
5年間の高専生活で私の得たもの	電気電子工学科5年 土屋 惇 …… 22
目標と成長	電子制御工学科5年 富岡悠二 …… 22
今だから言えること	機械・電気システム工学専攻2年 谷口友紀 …… 23
☆私の高専時代	
あとになってわかること	機械工学科14期生 井上 聡 …… 24
☆学生の研究活動（2012.5.1～2013.4.30）	
☆平成24年度卒業生・修了生進路先一覧	
☆教育後援会から	
卒業に際して	教育後援会会長 西岡珠美 …… 34
卒業を迎えて	教育後援会副会長 中村款治 …… 34
☆事務部から	
平成25年度前期分授業料の免除および徴収猶予について	35
平成25年度（平成25年4月～平成26年3月）行事予定表	36

沼津工業高等専門学校の目的、教育目標、 養成すべき人材像、学生受入方針

教育理念

人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ

目的

本高専は、豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成をおこない、もって地域の文化と産業の進展に寄与することを目的とする。

教育方針

1. 低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人教育を行う。
2. コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
3. 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。
4. 教員の活発な研究活動を背景に、創造的な技術者の養成を行う。

学習・教育目標

本高専は、学生が以下の能力、態度、姿勢を身につけることを目標とする。

1. 技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
2. 自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力
3. 工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
4. 豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
5. 実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

養成すべき人材像

社会から信頼される、指導力のある実践的技術者

学生受入方針

- 科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を身に付けている人
- 自ら学習し、科学技術の知識を用いて社会に貢献する意思のある人
- 科学技術の社会的役割と技術者の責任について考えることができる人
- 他人の言うことをよく聞き、自分の意見をはっきりと言える人

校長・副校長・校長補佐から（平成24年度総評）



沼津高専の教育改革

学 校 長
柳 下 福 藏

（独）国立高等専門学校機構の第二期（平成21年度～25年度）中期目標の柱は「高専の高度化」であります。

本校は、創立50周年を迎えた本年度を機に、外部有識者等の提言を基に自主的・自律的に作成した、環境・エネルギー、医療・福祉を重視する社会経済環境の変化に積極的に対応するための学際教育を取り入れた新教育課程の適用を開始しました。本年度の新入生から1学年を混合学級として全ての1年生が5学科の基礎的実験・実習を体験する工学基礎を受講し、2年生は2～3名の学生が全教員にミニ研究の個別指導を受け昨年9月に公開で発表会を実施しました。1年生の工学基礎、2年生のミニ研究のいずれもが受講生から概ね好評を得ており、現1年生が3・4・5学年に進むと専門5学科の基幹科目と同時に学際分野（環境・エネルギー、医療・福祉、新機能材料）の科目を選択して学び、広い視野を備えた創造的・実践的技術者を育成してイノベーション創出に貢献できる人材の育成を目指すこととなります。

専攻科については、平成26年度を目途に本科の学際教育の発展として現在の3専攻を「総合システム工学専攻

（環境エネルギー工学コース、新機能材料工学コース、医療福祉機器開発工学コース）」の1専攻3コースに改編することになりました。このような本校の教育改革への積極的な取り組みは、国立高専機構、文部科学省及び大学評価・学位授与機構から高い評価を受けています。

さらに、地域共同テクノセンターを中心に近隣企業との共同研究、受託研究が卒業研究、専攻科研究の学生参加のもとに教育の一環として積極的に進められていることはもとより、静岡県ファルマバレープロジェクトの人材育成を担う「富士山麓医用機器開発人材育成プログラム（4年目に入った（独）科学技術振興機構の地域再生人材創出拠点の形成事業）」ならびに寄附研究部門「水素利活用技術」等による地域産業界との濃密な連携により、ものづくり技術力の継承・発展に着実に貢献している本校の取り組みは全国的にも高く評価されています。

終わりにあたり、産業界に就職する諸君、高専専攻科・大学・大学院に進学する諸君にとって、沼津高専における五年間（いつとせ）は何物にも代えがたい財産であること、そして、ゆるぎない人生を築き上げる四つの原則

- 公明正大であること
- 清廉潔白であること
- 裏表がないこと
- 思いやりがあること

の言葉を贈ります。

私が5年前の入学式で校長告示を述べた諸君が創立50周年の記念すべき年に卒業・修了されることに感慨深いものを感じつつ「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待に応える」よう大成されることを祈念します。



教育改革元年を振り返って

副校長（教務主事）
蓮 實 文 彦

本年度は、沼津高専にとって記念すべき年となりました。勿論、11月1日に挙行された50周年記念式典に代表される創立50周年の年でありました。同時に柳下校長、押川校長補佐を中心に進めてきた教育改革実施元年でもありました。この改革で導入した「1年生の混合学級」の成果として、前期末での1年生全クラスの平均点数が昨年度より約3点上がり、80点に達しました。これは、混合学級の成果ばかりではなく、同時に進めてきた入試改革（推薦基準の見直し、学力試験科目の変更等）の成果でもあります。1年生全体の印象として元気で活発な学生が増えました。これを反映するもう一つの変化があります。昨年度、大島副校長により導入された様々な留年・退学者対策を本年度も実施致しました。昨年度は、

折角、様々な学習支援の場（数学教師、物理教師による個別学習支援、メンタルヘルスを中心とした学習支援、専攻科生（兄貴）による学習支援）を設けても、支援を受けに来なかったり、途中から来なくなったりと支援を企画した教員や学生をがっかりさせる状況でした。ところが本年度は、1年生を中心に、希望学生が多数受講し、担当の水口講師に延長の指導を願い出る程でした。最終的な成果は後期末を待たねばわかりませんが、改革に伴う嬉しい変化が表れてきています。

本年度導入されたもう一つの教育改革「2年生のミニ研究」の成果発表会が9月28日、保護者の方々にも公開で終日かけて開催されました。教養科の先生方も含め、全教員が3名程度の学生を指導したことから、様々な分野の研究が発表されました。基本は学生が調べたいこと、疑問に感じていることを中心に研究が展開されたこともあり、発表会当日、生き生きとした学生の発表が展開され、会場は質問する教職員、学生と発表者の間で熱を帯びた議論が展開されました。参加者の投票で選ばれたベストポスター賞の研究成果は、高専祭と産学交流のイベント「テクノフォーラム in 沼津高専」でも発表されました。そ

の後のアンケート調査でも、「ミニ研究をやったよかったです」とする意見が8割近くに及びました。この「ミニ研究」は更なる改善が企画されています。

本年度は、キャリア教育の実施元年でもありました。1・2・3年については、特活の時間を利用し、企業での経験豊富な本校OBの方々とキャリアカウンセラーの資格を持つ技術職員の増田氏によりクラス毎5回のキャリア教育が実施されました。専攻科生も含め4年生以上の高学年に対しては、土曜日や長期休暇中に村松客員教授

により高学年向けのキャリア教育が実施されました。高学年へのキャリア教育は、実施時期に問題があり、高学年への特活時間の新設も含め、見直しが急務となっています。

保護者の皆様には、前回の「高専だより」で紹介した1年間の自分の歩みが辿れる「ポートフォリオ(ファイル)」を活用され、学生諸君とともに1年間の歩みを振り返り、次年度に向けての励ましをお願い申し上げます。



平成24年度を振り返って

校長補佐(学生主事)
大久保 清 美

年度当初に私は、学生主事の最重要掌理事項は、1. 学生の事故、2. 学生のメンタル・ヘルス、3. 学生の非違行為に対する「リスク・マネジメント」であると書きました。一年経ってこれを点検評価してみると、1. 登下校時の学生の交通事故に関しては、残念ながら及第点は付けられません。今年度、学校が把握しているだけでも原付事故が10件、自転車事故が5件起こりました。どれも大事には至りませんでしたがいずれ大事故に繋がらねず、すでに行っている交通講話、原付安全運転講習会、「自転車交通安全リーフレット」の配布、朝の交通指導(正門、五叉路付近)等に加え、新たな予防策が求められています。特に原付通学生が約150名と他高専に例を見ない多さ故に事故のリスクは当然高くなりますが、今後ともなんとかこれを抑えて行かねばなりません。

2. 学生のメンタル・ヘルスについては、今年度はカウンセリングを受ける学生が例年に比べて少なく、一概には言えませんが良い傾向だと思っています。ただ、悩みを抱えている学生は勿論おり、こちらは継続的に注意しているところです。また長期休業中には、学生からの緊急連絡用に「いのちの電話」を学生主事が常時携帯しました。冬休み前には全学生に沼津高専版「自殺予防リーフレット」を配布しました。

3. 学生の非違行為については、それほど問題はありませんでした。また、教室内外の整理整頓・清掃については、担任・副担任の指導のおかげで概ね良い状態が保たれました。

学生会活動は今年度かなり変わりました。2週間に1回定例会を、1カ月に1回評議委員会を開き活発に活動しました。これまで名無しだった機関紙には「Reading!!」と名前が付き、内容も充実してきました。10月の体育祭では午前中を運動会形式にし、学生から好評を博しましたが、これらのアイディアも定例会の議論の中から生まれたものです。来年度以降のさらなる進化を期待してい

ます。創立50周年記念と銘打った高専祭も、例年通り大変見事に行われました。ただ、高専祭の準備期間中はスタッフの下校時間が遅くなることもあり、リスク管理の観点からすべての女子寮外生に学校から防犯ブザーを貸し出しました。なお来年度以降、高専祭片付けの日は点呼を廃止し、スタッフ以外の学生は高専祭の代休とする方針です。

クラブ活動については、女子バドミントン部が全国高専体育大会で団体・個人の部で3位入賞を果たすなど、大活躍をしました。また野球部も高校野球秋季東部地区大会で快進撃を続け、県大会まであと一歩のところまで迫りました。今年度はまた、大道芸同好会が新たに同好会として認められました。それに続く形で新聞同好会(仮)とかるた同好会(仮)から設立希望が出されましたが、クラブ・同好会の設立は顧問教員数の関係から、スクラップ・アンド・ビルドを大原則とするため、この2つの団体には同好会に準ずる形でしばらく実績を積んでもらうことにしました。

学校周辺クリーン活動は今年度も、担任・副担任のご協力の下、全クラスが実施しました。就職関係では今年度初めての試みとして、12月に学内企業説明会「沼津高専就職祭2014」を開催しました。県内外31社の企業が第2体育館にブースを設け、主に2014年度就職予定の4年生と専攻科1年生とが説明を聞きました。その際、メモを取りながら熱心に話を聞く高専生の態度が参加企業等から大変高く評価されました。この催しは、キャリア教育の観点からも大変有意義だったと思います。

国際交流関係では今年度、創立50周年記念事業の一環として、国際交流基金が設立されました。来年度から海外インターンシップ等に参加する学生にこの基金より補助金を支給するなどし、本校のさらなる国際化を推進して参ります。また来年度から、最近2年間校内で行っていた「1年生オリエンテーション研修」を、従来通り御殿場の国立中央青少年交流の家で行うこととしました。

このように、この一年間ここには書ききれないことも含め、大変多くの業務に携わってきましたが、曲がりなりにも学生主事の責務を果たせたとすれば、それはひとえに校長先生を始めとする教職員、学生、保護者、関係者、すべての皆様のおかげと感謝しております。一年間、ありがとうございました。



平成24年度総評

校長補佐（寮務主事）
遠藤 良樹

日ごろ寮運営にご協力、ご理解頂きありがとうございます。今年度もすばらしい寮生会の協力のもとスタートし、期待通りの活躍をみせてくれました。

さて今年度の活動を簡単に振り返ってみます。

4月：26日には地震を想定した防災訓練が行われました。また28日に新入生歓迎のための親睦会が行われました。

5月：寮最大のイベントである寮祭が13日に行われました。天候にもめぐまれ大勢の方が来てくださいました。寮祭の成功は保護者の皆様のご協力がなければありません。お礼申し上げます。

6月：今年も長泉北中学習支援が始まり、また後期には長泉北中生徒を対象とした休日学習支援も引き続き行われました。月末には富山高専の寮生2名が2泊3日で本校学寮に体験入寮しました。これは昨年度から始まった交流の1つです。

7月：14日に夏祭りが行われました。今年も花火師を招いて打ち上げ花火を行いました。

9月：15日から17日にかけて夏季寮生リーダー研修を行いました。春の研修と同様、長泉消防署で救命救急講習

を実施しました。

10月：釧路高専との交換寮生を17日から21日にかけて実施しました。双方2名ずつの寮生が相手校の寮で生活しました。

11月：10月から始まった来年度寮長選挙とこの月に行われた同副寮長選挙により来年度寮生会3役が決まりました。ご紹介しますと、

寮長 金子直嗣君（C3 現清峰寮棟長）
副寮長 石川和磨君（E2 現清峰寮階長）
牧野秀紀君（D2 現栄峰寮階長）

です。また今年はさきほど書きました富山高専に今度は本校の寮生3名が派遣され寮生活を2泊3日で体験しました。来年度からは同時期に釧路と同様な交換寮生ができればと思っております。さらに静岡新聞社が寮生活を取材に訪れ、27日夕刊に記事が掲載されました。

以上が今年度の主な活動です。

施設の面では男子寮を含む全居室にエアコンが設置され、11月から本格的に稼働し始めました。寮生には好評です。また、同じ11月から学寮宿直体制が変わりました。教員2名の宿直からそのうち1名を外部委託にしました。現時点で大きな問題は起こっておりません。

終わりに、1年間学寮を支えてくださった寮務関係教員、寮務係職員、宿直してくださった教員、学生課職員、保護者の皆様、そして寮生会、全寮生に感謝致します。ありがとうございました。



平成24年度を振り返って

校長補佐（専攻科長）
遠山 和之

専攻科生の保護者の皆様には、日頃より専攻科の教育活動にご理解とご協力を頂き、感謝申し上げます。平成24年1月現在で1年生24名、2年生27名の計51名が在籍しており、4月には新たに21名の入学者を迎える予定であります。

専攻科では、国際性豊かな技術者の育成を目指し、海外インターンシップや国際会議への参加を積極的に進めています。本年度も応用物質工学専攻2年の橋本英弥さんが9月8日～23日の間、高専機構主催テマセク・ポリテクニック技術英語研修に、さらに11月21日～24日の間、タイ・バンコクでの国際会議（International Symposium on Technology for Sustainability）に出席し、研究成果を発表しました。制御・情報システム工学専攻1年の渡邊優太郎さんは8月18日～9月15日の間、富山高専の学生とともに北アイルランド South Eastern Regional College (SERC) での海外インターンシップに参加しました。制

御・情報システム工学専攻1年の吉田亮太さんは、平成23年度春季海外インターンシップでベトナム（ヤマハ発動機）に派遣され、派遣先の企業から高い評価を得ました。平成24年度春季海外インターンシップも2名の専攻科1年生が応募し、それぞれマレーシア（東洋エンジニアリング）とインドネシア（小松製作所）に派遣されることが決まっています。国際会議では、制御・情報システム工学2年の渡邊俊哉さんと同1年の渡邊優太郎さんが、10月14日～17日の間、カナダ・モントリオールで開催された国際会議（Conference on Electrical Insulation and Dielectric Phenomena）に出席し、研究成果を発表しました。渡邊俊哉さんは、2011年IEEE/DEIS Japan Chapter優秀論文発表賞を受賞しています。その一方でプライベートで海外旅行に出かける専攻科生も増えてきているようです。海外旅行で危険な目に合わないよう外務省海外安全ホームページ等の正確な情報を確認し危険地域には絶対行かないこと、旅行保険に必ず加入すること、事前に学校に連絡することをお願いしたいと思います。

この他にもお金をかけずに学内でコミュニケーション・プレゼンテーション能力を高める機会を専攻科生に与えるというコンセプトから本年度より技術英語Ⅰの後半部分において、外国人講師による専門授業（全8回、授業

は全て英語で行います。)を始めました。本年度この授業を受講した学生のアンケート結果はとても高い評価でした。来年度も継続して実施する予定です。

前期中間試験前の5月25日(金)～31日(木)と前期末試験前の7月23日(月)～27日(金)に専攻科自治会による勉強部屋を実施しました。延べ51名の本科生がこの勉強部屋を利用し、大変盛況でした。後期は、専攻科生がマンツーマンで本科生の勉強をみる継続的支援を実施し、4人の1年生が週1回決めた曜日の放課後に研究室に行き、専攻科生のもとで数学等の勉強を2時間程度行いました。こちらでも無料で実施しているのでは是非活用して頂きたいと思えます。

平成24年度3月期修了予定者のうち、就職内定者は18名(旭化成、ソフテック、東京エレクトロンFE、東京エレクトロン山梨、セガ、東芝キャリア、コマツ、日本テトラパック、小林製作所、東芝テック、日本食品化工、富士通、セイコーエプソン、明電舎、東芝プラントシステム、富士セラミックスの16社)、大学院への進学者は8名(東京大学大学院、名古屋大学大学院、東京工業大学大学院、奈良先端科学技術大学院大学、豊橋技術科学大

学大学院、立命館大学大学院の6大学院)と例年と比べて就職する学生が多くなりました。

10月～12月にかけて、大学院説明会が10回開催されました。本校に説明にみえた大学院は、豊橋技術科学大学を皮切りに、東京工業大学、北陸先端科学技術大学院大学、長岡技術科学大学、福井大学、名古屋大学、筑波大学、奈良先端科学技術大学院大学、山梨大学、東京工業大学大学院生命理工学研究科、東京医科歯科大学の11大学院です。専攻科修了生が大学院においても高く評価されているものと自負しております。なお、北陸先端科学技術大学院大学と奈良先端科学技術大学院大学とは、推薦入学に関する協定を結んでおります。また豊橋技術科学大学は専攻科修了生特別推薦入試と呼ばれる書類のみで選抜する入試があります。このように本科卒業後、学費の安い専攻科で学士(工学)を取得し、大学院を目指すことも可能です。現在、教育の充実と高度化を図るべく平成26年度から1専攻3コース制(環境エネルギー工学コース・新機能材料工学コース、医療福祉機器開発工学コース)をスタートさせる準備を進めております。今後とも専攻科をよろしくお願ひします。



混合学級と学際教育の導入：平成24年度総評

校長補佐(学際教育担当)
押川 達夫

平成24年度入学生より導入された「混合学級と学際教育の導入」の目的は、「現行の専門教育を基盤としながらも他の専門知識を幅広く学習することにより、実社会に役立つ技術者としての人材を輩出する」ことにあります。このような背景から、平成24年度の新入生は、①混合学級により同級生間の広い人間関係の形成、②専門性に関わりなく工学に共通の基礎知識を学習する「工学基礎Ⅰ」、③専門性に関わりなくモノ作りに必要な知識と実験を学習する「工学基礎Ⅱ(共通実験)」、④現2年生には創造性を育むために全教員が指導教員となる「ミニ研究」を実施したところです。これらの①～④の項目について総評いたします。

①混合学級の総評：本校の歴史上で初めて混合学級を設定しました。1年生担任や1年生の科目担当の先生方より、専門学科色が薄まったこと、クラス間で成績のばらつきがなくなったこと等が報告されているところです。その一方、数学と物理の成績が例年と比べて若干落ちていることも報告されています。これについては、「全体として完成度を高めた解答が少ない(換言すれば、中途半端な解答であることに気づかない)」学生が少なからず多いとの報告を受けています。私達教員は学生の成長を無情の喜びと感じる集団です。学生諸

君!!理解できない事項を放置せず、教員室のドアをノックしよう!!訪問しにくいなら、担任に相談しよう!!

- ②工学基礎Ⅰの総評：各クラスの学生を約3等分し、3箇所の大教室で3人の教員がローテーションで授業を実施しています。授業内容はレポートの書き方から授業ノートの取り方から始まり有効数字の意味や安全教育等を行っているところです。基本的な事項の内容ばかりの授業内容ですが、「当たり前のことを当たり前身に付ける」事が最も重要であることを学生に伝え、概ねその成績は好結果を得ています。学生はこの姿勢を今後も貫いてほしいと願っています。
- ③工学基礎Ⅱ(共通実験)の総評：1年間を3分割した期間で実験を行い、第1期と第2期ではそれぞれ5分野の専門基礎実験を行ってきました。また、最終の第3期ではレゴブロックダーツをチーム制作し、1月31日にはその競技会を開催します。第1期と第2期の基礎を踏まえた創造性を高める第3期の制作は必ずや彼らの創造性の基礎を高めていると確信しています。学生アンケートより設定した実験内容に若干の差はあったものの、概ね「興味を持って取り組めた・身に付いた」との高い割合の回答を得ております。もちろん教員側の反省や改善点も集約して、次年度に活かしていきます。
- ④ミニ研究の総評：結論から申し上げますと、高評価を与えて良い科目でありました。多忙な環境の中で先生方はよくご指導くださったと感じています。また、学生は座学でもなく、専門科目の与えられた実験科目でもない状況の中で大いに創造性の基礎を芽生えさせたのではないかと思う研究発表でした。学生と教員相互に

初めての試みの科目のため、反省点や改善点が多数ありました。これらの点については次年度に活かしていきたいと思います。研究発表会では多くの保護者参観もあり、大変嬉しく思っているところです。しかし、何よりも嬉しいのは発表学生の2年生と教員が対で議

論しているシーンは学生にとって大きな収穫となったと思います。「継続は力なり」です。マンネリ化せず、今後も工夫を重ねながら本科目を充実させていきたいと考えています。

各 学 科 か ら (平成24年度総評)



この1年を振り返って

機械工学科長

小林 隆 志

本校創立50周年を迎え、学際教育を取り入れた新カリキュラムが始まり、次の沼津高専の半世紀への第1歩が踏み出されました。

今年度は、ロンドンオリンピックでの日本選手の活躍、京都大学山中教授のノーベル賞受賞がありました。一方で、国際的には領土をめぐる問題がクローズアップされた年でもありました。また円高も日本企業を苦しめ、大手電機メーカーが窮地に追い込まれました。昨年暮れの政権交代によって円安が進み、企業の業績も好転しつつあるようです。しかし、これからの日本経済が為替相場に左右されず力強く回復・成長するためには、世界の先を行く先端技術開発が何より大切です。

この春めでたく卒業式・修了式を迎えた皆さんは、このような世界の中で生きていることを認識しつつ研鑽を重ねられ、これからの日本の将来の産業界を支える人材として活躍されることを祈っています。

今年度の機械工学科の卒業生・修了生の進路状況は、本科5年生が就職24名、進学12名、専攻科生は就職3名です。就職については、昨今極めて厳しい状況ですが、就職希望者は希望通り内定を得ました。機械工学科には産業界からの強い期待がありますが、在学生の皆さんはそれに甘んずることなく、今は機械技術者としての知識・

技術の習得に努力してください。また、将来の日本にとっては皆さんの新しいアイデアも必要です。多くのことに興味をもって、チャレンジしてください。

1月に日本機械学会東海学生会の講演会で出光興産の技術者の方に講演をお願いしました。東日本大震災の際、千葉の石油会社の製油所でタンクの爆発事故が発生するなど、多くの石油会社が被害を受けましたが、出光興産は震災の被害を免れました。これは、自然災害に対する技術的な備えがあったからこそのことです。実は平成15年の十勝沖地震の際に、長周期地震のため苫小牧の製油所のタンクが火災を起こすなど大きな被害を受けました。これを機に自然災害に対する備えを見直し、古文書などで過去に起きた自然災害を徹底的に調べ、対策をとっていたとのこと。仙台の製油所では津波により他の会社の製油所が操業不能となる中、震災の翌日も操業し、ガソリンや灯油を送り届けたそうです。東北地方を襲った規模の大津波も想定していたということです。先人の残した知恵・体験を伝承し、今に生かすことの大切さを教えていただきました。

半世紀にわたり本校の機械工作実習教育を担ってきた第1実習工場の改修が進んでいます。この高専だよりが発行される3月には完成し、来年度からは教育・研究センターとして発足する予定です。次の沼津高専の半世紀を牽引する中核施設としての役割が期待されます。

機械工学科としては引き続き産業界の動向を注視しながら、社会の要求に応えられる技術者教育に取り組んでまいります。今後とも保護者の皆様のご理解とご支援を心よりお願いいたします。



平成24年度を振り返って

電気電子工学科長

佐藤 憲 史

日頃より、電気電子工学科の教育・研究にご理解とご支援を賜り、感謝申し上げます。昨年4月から電気電子工学科の学科長を務めていますが、今年度は、沼津高専創立50周年を迎え、さまざまな行事や事業が実施されま

した。また、1年生の混合学級や2年生のミニ研究など、「学際教育の導入」を柱とした改革のスタートを切る年になりました。このような変化を楽しみ、さらに飛躍できるようにしたいと思います。

日本の状況を見ると、電機業界の不振が報道されています。しかし、電気電子技術は家電などの民生品だけでなく電力や通信など多岐にわたります。電気電子工学科では、エネルギー・エレクトロニクスからエコロジーまで広範囲な分野に目を向け、さまざまな産業界で活躍できる人材育成を目指しており、そのための教育内容の充実を図っています。

今年度の電気電子工学科の進路状況について、簡単に記させていただきます。本科5年生では、就職希望者が14名、進学希望者が25名でした。就職については、求人票を受け取った企業数は430社に上り、100社からご訪問をいただきました。これは例年とほぼ同じ高い水準にあります。就職難といわれる社会状況の中で、高専が企業や社会から高い評価を受けている表れと言えます。このような中、就職希望者全員が内定をいただきました。内定をいただいた企業は、電力などの重電関係、製薬、食品関係など、広範囲にわたっています。進学では、1名を除き進学希望の学生24名が進学先を決めています。1名の学生は、海外の大学への進学を目指し準備中です。進学先は、東工大や大阪大、名古屋大などの有名大学をはじめ、全国の大学と沼津高専専攻科です。

ここ数年来、低学年よりキャリア教育を推進していますが、企業や社会に目を開き、就職について学生が自分の考えを持つことが重要であり、このようなキャリア教育を今後も継続していきます。3年生の頃から大学情報

や進路状況を伝え、学生が進学か就職か、という進路選択を早期に決断できるように努力しています。

当学科で3年前から取り組んできた「電動バイクプロジェクト」は、1年生から5年生まで学生が自由に参加できる活動ですが、今年度は「電動カート」に取り組みました。電動バイクで培った技術をもとに電動カートを作製し、高専祭で多数の来場者に試乗していただきました。このような学生による自主的な活動を、今後も追及していきたいと思えます。

以上、簡単に今年度の活動を報告しました。学科長として最も気にかかることは、沼津高専と当学科が中学生にとって魅力ある進路先になっているか、ということです。そのような視点から、この1年間、当学科の広報・宣伝活動に努めてまいりました。今後もいろいろな活動を通して発信していきます。電気電子工学科の教育・研究の充実と発展を目指して、教員一同全力で取り組んでいきますので、保護者の皆様の変わらぬご支援とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



平成24年度末にあたって

電子制御工学科長
川上 誠

昨年度に続き、平成24年度の電子制御工学科長を務めさせていただきました川上です。まだまだ至らぬ点多々あったと思いますが、なんとか年度末を迎えることができました。関係各位、保護者の皆様には、深く感謝いたしております。

さて、当学科の今年度卒業予定者は38名（昨年度は43名）で、そのうち就職する者が20名（18名）、沼津高専専攻科への進学が9名（10名）、大学編入学が8名（13名）、進学希望1名となりました。当学科の教員が指導しています専攻科2年生につきましては、大学院進学が6名（東京大学大学院1名、東京工業大学大学院2名、名古屋大学大学院1名、他2名）（9名）、就職が2名（6名）です。

本科生の就職に関しては、332社（昨年327社）から求人があり、若干回復の兆しは見て取れますが企業側は採用する人材のレベルは下げおらず、厳しい状況であることに変わりはありません。しかし、高専卒業生に対して企業からの強い期待が継続していることはありがたい限りです。

進学組に関しては、第1希望の大学に合格できた学生は9名中4名でした。その他の5名は第1志望以外の大学もしくは専攻科に合格しています。基礎学力の差ははっきりと出た結果でしたが、編入試験後は気持ちも新たにそれぞれの進路に向けて卒業研究に打ち込んでいる姿が

見られます。また、専攻科へ進学する学生は昨年度とほぼ同数の9名です。次年度も合格基準を満たせば、専攻科入学希望者をできるだけ多く受け入れる予定です。

昨年11月14日に開催しました学科説明会には、113組122名の保護者の皆様に出席していただきました。当日の資料は本学科の「第23回保護者懇談会（第4回学科説明会）資料」としてまとめ、学生には配布し欠席された保護者の皆様には郵送いたしました。アンケートでは、学科説明会の内容についてはほぼ分かったとの回答をいただきました。ありがとうございました。

学生の活動では、専攻科生と5年生が全国プログラミングコンテストに参加し、準決勝まで進むも残念ながら入賞を逃しました。また、12月に開催されたA&Sフェア2012では、A分野（機械・電子制御・ロボット）の発表全29件中、18件が本学科の5年生と専攻科生によるものでした。そのほか、様々な学会等で積極的に研究発表を行っています。

学校全体で言えば、今年度から1年生の混合学級が導入されました。学生たちにとっては、寮やクラブ活動以外で他の学科の人と交わることでいい経験ではないかと思えます。また、これも今年度初のことでしたが、2年生にミニ研究の時間ができました。ミニ研究は教養科目も含めた全教員が実施するため、卒業研究よりバラエティにとんだテーマが多く、大成功だったのではないかと思えます。現1年生の保護者の皆様、来年度は是非お子さんの発表を見に来てください。

以上、簡単ですが今年度の報告をいたしました。来年度も電子制御工学科教員一同、学生の資質向上に邁進していくつもりです。今後とも保護者の皆様方のご支援とご協力のほど、なにとぞよろしくお願い申し上げます。



制御情報工学科 平成24年度を振り返って

制御情報工学科長
長谷賢治

春陽の候、皆様ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素から制御情報工学科の教育・研究に多大なご支援とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。さて、この紙面をお借りして平成24年度の制御情報工学科を振り返って主なものをプロットしてみたいと思います。

まずは、本学科5年生の進路状況ですが、長期化する就職氷河期の中での2013年卒の就職・進学戦線は、37名中13名が就職、24名が進学をしました。就職状況は求人企業数が305社、求人倍率は約23倍で、就職先はスター精密、テクノサイト、ネクストエナジー・アンド・リソース（エネルギー利用システム開発）などです。今年度の特徴は自由応募で、単に企業の知名度ではなく真に自分がやり甲斐をもてる企業選択が目立ちました。一方、24名の進学先は、大阪大学などの旧帝大クラスへ3名、技科大、専攻科に8名、千葉大などの国立大学に11名、私大1名となりました。まだ1名が未決定ではありますが、どの学生も希望する学校へ進学することができました。では来年は？そのような中安倍内閣が就活学生対策強化を謳っています。しかし、あくまで自己の能力・技術力を鍛え上げていくしか道を拓くことはできません。学生諸君には益々の自己研鑽を期待したいと思います。

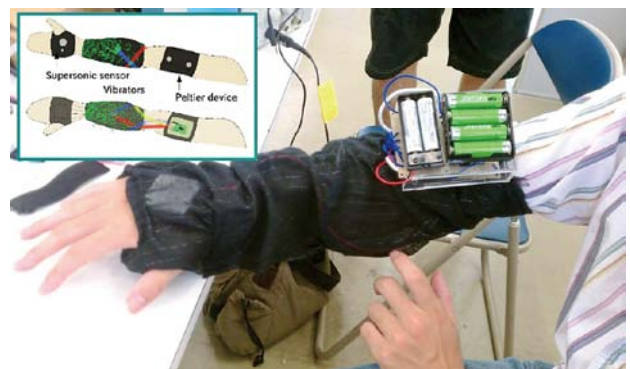
次に、教育的アクションについて、我々は組織内の資源を活用した教育的アクションと、特別講義、社会見学等、外部資源を活用した教育的アクションを学生諸君に投下しています。その中からいくつかを紹介します。まずは、第4年次の「創造設計」ですが、これは8人程度で起業、製品企画から設計、製作まで行うPBL型演習です。今年度の試みは「世の中のない健康増進機器を作れ」とし、今年度もユニークな製品が生まれました。その一例である製品名「PsychomeTree」のコンセプトは「樹木の生命力を自分に流し込む」でした。これは、アームグローブ型の機器でそれを装着した手で樹木に触れると、超音波センサが樹木の道管内の水流（キャピテーションによって発生する音）をキャッチし、グローブに埋め込まれた触覚ディスプレイでその音情報を触覚情報（力ならびに熱情報）に変換するというものです。これを装着してみると樹木の生命力が伝わってきてぞくぞくとするのです。この他にもユニークな装置が生まれました。

また富士通沼津工場長の三津濱先生の第3年次向けの特別講義「スーパーコンピュータ“京”への挑戦」では外部資源を活用したものでした。講師陣はスーパーコンピュータ“京”の開発者軍団4名で、システム設計、CPU設計、ソフトウェア設計について、迫力のある講義をしていただきました。「講義」というその目的は知識体系の伝達だと受け取られがちですが、でもそれは違います。真の「講義」とは、講師と学生の出会いの場（Ba）の生成であり、それも学生の人生を揺るがすような決定的な出会いの場なのです。今回の特別講義は、それを実現したものと確信しています。

我々は常にその時その時を全力投球し、教育的アクションを企画・実行しています。(1)工場見学、(2)中学生向けへの制御情報工学科PR活動、(3)保護者向けサービス（学科説明会2012等）などです。この教育的アクションの投下が空回りにならないことを願いたいものです。

最後に、制御情報工学科のスタッフについてですが、今年度で大島教授が定年退職されます。先生のご専門は水圧・油圧工学で、第三代目学科長として学科運営を精力的に展開し、また本学科の中心科目であるPBL型授業「創造設計（制御情報工学科4年）」を立ち上げました。現在の教育課程はこの科目を中核に設計がなされています。社会全体が「創造性」を強く要求する以前から、その先を見据えていらっしゃる先生は秀でた教育的卓見を持っていると感じます。この紙面を借りて先生に感謝の意を表したいと思います。

来年度は新しいメンバー2名を迎え、より強力な形で学科を再生していきます。制御情報工学科スタッフ一同、益々の研鑽を積み、学生の資質向上に邁進していく所存です。保護者の皆様には今後とも一層のご支援、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



アームグローブPsychomeTree



物質工学科の 平成24年度を振り返って

物質工学科長
芳野 恭 士

今年度も、物質工学科の教育・研究にご支援をいただき、保護者の皆様をはじめ、関係各位に厚く御礼申し上げます。

平成24年4月に、物質工学科新入学生44名と専攻科応用物質工学専攻入学生5名を迎え、物質工学科2年生44名、3年生43名、4年生49名、5年生38名、専攻科応用物質工学専攻2年生3名の大所帯で今年度がスタートしました。1年生は今年度より混合学級となり、物質工学科としての専門科目は週1科目と少し物足りなかったかもしれませんが、2年生からは学科ごとのクラス編成となり専門科目が増えますので、進級の際には今一度心を引き締めてほしいと思います。本科1年生は4月のオリエンテーション、2年生は観劇研修、3年生はスキー研修、4年生は関東方面の工場見学と、それぞれの学年でも研修が実施されました。彼らがこれからも努力を継続し、一人前の技術者となる力を身に付けて本科を卒業していくことを切に願っております。

5年生については、進路をご報告させていただきます。5年生の就職希望者は19名（内定率100%）、進学希望者は18名（進学率100%）でした。1名は自己研鑽のために休学しております。就職については、厳しい社会状況の

中ではありますが、高専OBの方々の力量が高く評価されていることもあり、昨年の7月には全員内定を勝ち取っています。しかし、今後とも厳しい就職活動が予想されます。一方、進学においても、大学における本校卒業生の評価は高く、希望者全員が大学進学を決めています。先が読めない経済状況の中、高専卒業後の就職と進学については、今後とも十分に学生本人と保護者の皆様と相談しながら進路指導を行っていく所存です。

卒業生諸君へ！皆さんは物質工学科教員一同が鍛え上げた沼津高専卒の技術者の卵として自信を持って活躍してください。ただし、自分の力を過信することなく、これからも技術者としての能力をより高める努力を継続することが大前提です。また、本科から就職する人達の中には、海外で仕事をするようになる可能性があります。大学に進学する人達も当然同じことですが、グローバルな環境で仕事をする機会を是非自分のキャリアに積極的に活かしてほしいと思います。

今年度は本校創立50周年を迎え、多くの関係の方々にお祝いをいただきましたが、物質工学科の前身である工業化学科は設置46周年になります。今年度の1年生は、C科47期生に当たります。現在の良い進路については、学生達の努力とともに、保護者の皆様をはじめOB諸氏の支えがあつての物質工学科の実績と心より感謝しております。現状に慢心することなく、物質工学科のさらなる発展を教職員一同築いていく所存です。今後とも、保護者の皆様と連携をとりながら学生の成長を支えて参りたいと思いますので、どうぞ宜しくお願い致します。



平成24年度を終えるに あたり

教養科長
西 垣 誠 一

いきなり私事で恐縮ですが、教養科長として4年目のスタートを切った4月下旬から3週間余り入院してしまうという事態を引き起こしてしまいました。その間特に私が数学を担当していたクラス、そして顧問をしている柔道部の学生諸君をはじめ、多くの方々に大変迷惑をかけてしまいました。しかしながら、同僚の先生方のご支援等により、授業等の代替のみならず教養科長としてなすべき多くのことが滞りなくなされていきました。本当に多くの人々に支えられて生きているのだと身をもって感じました。忙しさに日々追われていると、ややもすれば何でも自分一人でやっているような錯覚に陥ってしまいがちですが、周りをよく見て行動しなければならぬと自戒した次第です。

さて私事から入ってしまいましたが、今年度の沼津高

専には大きな変化がいくつかありました。その中の一つに1年生の学級編成をこれまでの学科別から混合クラスにしたということがあります。1年生自身はクラス編成がどうであろうと高専に入学して新たな環境で学ぶことには変わらないので、あまり実感がなかったかもしれませんが、上級生からは羨ましがっている声をいくつか聞きました。友達の輪が広がりいろいろな人と付き合えるということは、人間形成にとって大切なことです。1・2学年の学級担任は教養科の教員が担当しておりますので、教養科としてもクラス運営を現行のままでよいか意見交換しているところです。例えば、混合クラスでありながら学科単位で受ける授業を設けるような工夫はしておりますが、単純に考えれば各学科の独白色と言いますか専門性の導入を少し遅らせることになります。そのようなことが今後どう影響してくるのかは学年が進行してみないとわからない点もあります。私は混合クラスを否定しているわけではありません。物事はいいことばかりということはありません。物事のある点を改善すると何か別のところが弱くなるものかもしれません。「ゆとり教育」と銘を打って行われた教育改革もそうだったのではないのでしょうか。改革を行う

にあたり、何か新しいことをやったとき、問題点がないか常に心を配りながら進めていかなければなりません。教養科長としてできることは少ないかもしれませんが、そのような心構えで取り組んできたいと考えています。

以上思いつくままに書きましたが、今年度は退職され

る先生もなく、教養科は同じ体制で来年度を迎えることになると思います。

最後になりましたが、教養科教員一同学生教育のため一生懸命頑張る所存ですので、今後ともよろしくお願ひします。

国際交流室から

この一年間の国際交流活動について

国際交流室長 鈴木久博

将来国際的に活躍できる技術者を目指して、この一年間、学生たちがさまざまな海外研修プログラムに参加し、自己研鑽に励みました。まず、北アイルランドのサウスイースタン・リージョナルカレッジでの1か月間の国際インターンシップ（富山高専主催）に専攻科生1名が参加し、語学研修と実務訓練を受け、現地の工場見学にも行きました。また、菊川市に本社を置く（株）旭テックの短期グローバルインターンシップには4年生1名が参加し、同社のタイ工場の見学、課題研究に携わりました。また、この春休み期間に行われる高専機構主催の海外インターンシップに2名の専攻科生が参加することになっています。

9月中旬には、やはり高専機構主催による、シンガポールのテマセク・ポリテクニックでの2週間の技術英語プログラムに専攻科生1名が参加しました。参加した学生は、国際学会で必要な様々なスキルを学び、その後11月にタイで行われた「持続可能な社会構築への貢献のための科学技術」に関する国際シンポジウムで研究発表を行いました。

さらに、国境をこえて活躍できる技術者育成を目指す

豊橋技科大主催の国際交流プログラムに本科4年生が1名参加しました。インドネシアのバンドン工科大学で行われ、グループディスカッションやプレゼンテーション、企業訪問やホームステイを体験しました。

このほかの国際交流プログラムとしては、本校独自で毎年夏期に実施している異文化体験&語学研修があります。今年度も昨年に引き続き、アメリカ合衆国シアトルで実施し、1年生から5年生までの8名の学生が、2週間ホームステイをしながら研修に励みました。語学学校では他の国々からやってきた学生たちとともに授業を受け、その積極性に刺激を受けた様子でした。

いずれのプログラムに参加した学生も、異文化に触れるとともに、英語でのコミュニケーションの必要性を実感して帰国しました。大変よい経験になったものと確信します。

一方、学内での国際交流の取り組みとして、約1か月間、昨年度に引き続き、タイのキングモンクット工科大学から3名の短期留学生を受け入れました。また、中部地区の高専を中心とした共同プロジェクトである、国際的に活躍できる技術者育成のための「ロードマッププロジェクト」に積極的に取り組み、海外で働いた経験を持つ企業の方の講演会を行ったり、海外企業で働く卒業生の声を冊子で紹介しました。さらに、ふだんから身近にいる留学生の話を聴く講演会を実施し、学生の国際的意識向上に努めました。



部 活 動

第47回全国高等専門学校体育大会

競技名	種目名	成績	クラス	氏名	備考
陸上	男子400m	6位	S 3	木山順正	
	男子800m	予選敗退	D 3	瀬戸翔太	
	男子走幅跳	8位	D 5	伊庭達哉	
テニス	男子個人の部 シングルス	1回戦敗退	D 3	高橋一将	
バドミントン	女子団体の部	3位	—	—	
	女子個人の部 シングルス	3位	C 4	米山沙弥	
	女子個人の部 ダブルス	3位	C 5 C 4	佐野友美 米山沙弥	
水泳	男子100m平泳ぎ	予選敗退	D 4	村串憲一郎	
	女子100m平泳ぎ	予選敗退	C 3	渡辺彩夏	

第50回東海地区国立高等専門学校体育大会

競技名	種目名	成績	クラス	氏名	備考
陸上	男子400m	2位	S 3	木山順正	全国大会出場
	男子800m	2位	D 3	瀬戸翔太	全国大会出場
	男子走幅跳	2位	D 5	伊庭達哉	全国大会出場
	男子砲丸投	3位	E 4	杉山元気	
テニス	男子団体の部	2位	—	—	
	男子個人の部 シングルス	1位	D 3	高橋一将	全国大会出場
	男子個人の部 シングルス	3位	C 2	高橋望史	
	男子個人の部 ダブルス	2位	D 3 C 2	高橋一将 高橋望史	
	男子個人の部 ダブルス	3位	M 5 D 5	福田英史 梅原毅	
バドミントン	女子団体の部	1位	—	—	全国大会出場
	女子個人の部 シングルス	1位	C 4	米山沙弥	全国大会出場
	女子個人の部 ダブルス	1位	C 5 C 4	佐野友美 米山沙弥	全国大会出場
ソフトテニス	男子団体の部	2位	—	—	
空手道	個人の部 組手	3位	S 4	北風玲太	
卓球	女子団体の部	1位	—	—	
	男子個人の部 ダブルス	2位	D 4 D 3	平柳匠大 泉谷勇季	
水泳	女子団体の部	2位	—	—	
	男子200m平泳ぎ	3位	D 4	村串憲一郎	
	男子100m平泳ぎ	1位	D 4	村串憲一郎	全国大会出場
	男子100m背泳ぎ	3位	C 2	白田鷹我	
	女子50m背泳ぎ	3位	C 4	芹澤梨香	
	女子50mバタフライ	3位	C 3	渡辺彩夏	
	女子100m平泳ぎ	1位	C 3	渡辺彩夏	全国大会出場
	女子100m自由形	3位	1-1	木下真優	
バスケットボール	男子の部	2位	C 4	前田英里奈	
			C 4	芹澤梨香	
			C 3	渡辺彩夏	
			1-1	木下真優	

全国大会出場報告

全国高専大会を経験して

陸上競技部 伊庭達哉

3年前の東海高専大会で走幅跳3位に入り、全国高専大会出場を期待されてから3年間、毎年もう一步というところまでいくものの、全国大会出場を果たせずにいました。東海地区は強豪校がひしめく地域であり、その壁は想像よりもずっと高いものだったのです。今年度、私にとっては最後となる東海高専大会で2位に入り、ようやく全国高専大会出場が決まりました。

念願の全国大会出場でしたが、ひとつ大きな問題もありました。5年生は進路を決める年であり、全国高専大会の2日後に大学編入学試験があったのです。日程的には、ぎりぎりまで参加可能でしたが、受験勉強に時間をかけざるをえませんでした。受験勉強を優先しつつ、週に1〜2回、体を動かす程度の練習をする日々を過ごしました。

それから2カ月、全国大会を迎えました。最後の高専大会、初めての全国高専大会に出場できるということで、気持ちは思った以上に高ぶっていました。記録は望めなくても、5年分の思いを込めて、自分自身は思いきり楽しんでこようと、ポジティブに考えるようにすると、体が軽くなりました。さらに嬉しいことに、5年間共に練習をしてきた仲間が、鳥取まで応援に駆けつけてくれま

感謝

テニス部 高橋一将

私は今年度の夏、第50回東海地区国立高等専門学校体育大会テニス競技で男子シングルス優勝という満足な成績を残すことができました。決勝戦のマッチポイント、緊迫した空気の中で相手のサーブがフォルトし試合終了した瞬間に私は泣き崩れてしまいました。優勝できた喜びとともに様々な思いが胸にこみ上げてきました。自分の試合を全力で応援してくれた人の期待に応えられた喜びと感謝の気持ちが抑えきれませんでした。この勝利は自分の力ではなく仲間の支えがあって得られたもので、自分はたくさんの人に支えられていることを強く感じました。本大会での優勝は、全国高専大会出場権とともに二つの大きなものを与えてくれました。

一つ目は様々な人とのコネクションが広がったことです。全国大会は夏休み中であり実家が浜松である私にとって練習をどうするかが問題でした。しかし、顧問の先生方やコーチが検討してくださり多くの練習の機会を作っ

した。色々な人の期待と思いを背負って、フィールドに立ちました。肩の力が抜けたためか、第1跳躍で今季最高の記録を出すことができました。その後も調子のいい跳躍が続き、気がつけば、全体で8位の記録を出していました。記録は6m57。自己ベストには及ばないものの、5年間の集大成といえる跳躍ができました。今まで指導してくださったコーチ、陰で支えてくださった先生方、練習を盛り上げてくれた先輩方、共に練習を頑張ってきたチームメイトなど、たくさんの人たちに支えられて残すことができた記録だと思っています。

さて、今回の高専大会では、後輩たちの活躍が非常に目立ちました。3年生の木山は、400mで50.71と自己ベストに迫る走りを見せ、東海高専大会で2位、同じく3年生の瀬戸も800mで自己ベストの1:59.88と、2分を切る走りで2位と、めざましい活躍を見せてくれました。全国高専大会に3人出場するのは、私が入学してからの最多人数です。さらに、木山は全国高専大会6位となる大健闘でした。高専大会に限らず、秋に行われた新人戦では、1年生の河合が走高跳で東部11位に入り、県大会に進みました。

沼津高専陸上競技部全体の士気及びレベルが上がっていると感じています。全国的にレベルの高い東海地区でも、結果を残すことができると信じています。これからも、沼津高専陸上競技部をよろしくお願いします。

最後に、陸上競技部での活動のおかげで、私の5年間の高専生活はとても充実したものになりました。これからの生活の糧としていきたいと思います。本当にありがとうございました。

てくださいました。近隣高校の強豪選手や全国高専大会出場経験があるテニス部OBなどに声をかけていただきました。皆、快く一緒に練習してくださり本当にいい機会をいただきました。しかし浜松から沼津まで頻繁に通って練習する金銭的、時間的余裕はありませんでした。そのため顧問の先生からテニス部OBで磐田市テニス協会理事長の高橋尚久様を紹介して頂き浜松での練習会に参加させていただきました。これが私にとって非常に大きなコネクションとなりました。全国大会まで毎日のように指導してくださり、また多くの人と関わり話をすることができました。この練習会は本当に自分にとってプラスになることばかりでした。高橋様には本当に感謝しています。このつながりを大事にして自分の力をより向上させたいと思います。

二つ目は部員たちの気持ちです。私は大会まで部員たちは何を指し目的はなんなのかわからずに練習しているのではないかと疑問に思っていました。特に二年生は部活の参加率が低く、雰囲気もあまりよくありませんでした。この様な状態で大会に臨むことになりました。大会は団体戦から始まり、惜しくも団体戦は準優勝でした。このままでは帰れないという思いで個人戦に臨みました。

試合では気持ちと気迫を前面に出して、時には「Come on!」と叫ぶ場面もありました。その姿をみていた部員達、特に下級生は「部活っていいものだと思います」、「感動しました」と目の色が変わっていきました。自分の試合によって人の気持ちが少しでも変わったということが私の中で大きな自信となりました。

私は今回の結果に満足していません。私が目指すのは

バドミントン全国高専大会に出場して

バドミントン部 遠藤みのり

私たちバドミントン部女子は、平成24年8月25、26日に開催されたバドミントンの全国高等専門学校体育大会に出場しました。今年の主催地は、鳥取県米子市でした。女子は、団体・シングルス・ダブルスのすべての種目で4年連続全国大会に出場しています。シングルスは米山沙弥さん、ダブルスは佐野・米山ペアが出場しました。

私は団体戦の選手として試合に出ました。昨年は補欠選手だったので、今回が全国大会での初めての試合となりました。東海大会とは違って全国のレベルは高くとても緊張しました。私は思うようにプレイすることができないまま負けてしまいました。しかし団体戦は3試合の勝利数で決まります。先輩たちが2試合とも勝ったので、3位入賞という素晴らしい成績を残すことができました。また、シングルスでは米山さんが順調に勝ち進み3位入賞しました。今でも準々決勝の試合は鮮明に覚えています。フルセットの試合になったからです。体力がなくなっている3セット目は技の勝負でした。次々に異なるショッ

今年度の水泳部を振り返って

水泳部 渡辺彩夏

今年度のプール掃除は、例年よりも少し早く、4月15日に行いました。その甲斐あって今年度は1名の女子を含む1年生8名が入部してくれ、28名でのスタートになりました。

水泳部のシーズンは5月からです。この頃のプールはまだ水温が低く、練習が終わると寒さで体が震えます。また6月になると梅雨が始まりますが、雨が降っても水泳部は練習します。高専大会に向けて練習量も少しずつ増え、部活の時間も充実したものになります。そして6月30日と7月1日に鳥羽商船高専で、東海地区高専大会が行われました。今年度は遠方でありましたが、バスの中でも楽しく過ごせました。大会中は自分の種目にも応援にも皆が全力を出し、沼津高専は総合で3位になりました。私は100m平泳ぎで優勝して全国大会への出場権を

東海地区大会での団体、シングルス、ダブルスの三種目に優勝し、全国大会に出場することです。この大会で感謝するという思いがどれほど大事であるか身にしました。これからは支えてくれる方々に感謝の気持ちを忘れず、チームの力を伸ばすために身を削って努力していきます。

トが打たれ素晴らしい試合展開となりました。ダブルスでも佐野・米山ペアが順調に勝ち進み3位入賞しました。

今回全国大会に出場してたくさんのことを学ぶことができました。そして、強い選手と試合をするという貴重な経験をすることができました。全国という大舞台では自分よりも強い人がたくさんいます。そのなかで、あきらめない強い心を持つことが大切だと先輩たちから学びました。また、他高専の選手からは試合展開の仕方を学ぶことができました。私はまだバドミントンを始めて3年です。どこに打てば有利な試合展開になるか、まだまだ上手くできません。強い選手や先輩たちから技を吸収し自分のものにしていきたいです。全国大会で学んだこと、経験したことをこれからの部活動に生かしていきます。

今回の大会も先生方や、OBの方々、父兄の方々からたくさんのお援助をいただきました。私たちが3位入賞という成績を残せたのも皆様のおかげです。ありがとうございました。今年度の目標は、来年度の東海大会で優勝して5年連続で全国大会に出場することです。目標を達成するためにも日々の練習を努力していきます。これからも応援よろしくをお願いします。

得ました。広島で行われた全国大会では残念ながら決勝には出場できませんでしたが、寒い中でも雨の中でも練習したことが全国大会出場に結びついたのでと思います。

さて、今年度の活動を振り返ってみると、8名入部した1年生がみな一生懸命に取り組んでくれたことがうれしかったです。消毒用の塩素をプールに定期的なまき、プール掃除などで中断することなくシーズンを通して練習を行うことができたこともよかったです。しかし一方で寒い時期や雨天時に2年生以上の参加率が少なくなりがちであったことは改善したい点です。プールで練習できる期間は短く、3ヶ月ぐらしかありません。高専大会に向けてシーズン初めから充実した練習を行うために、下級生から上級生までのみんなが常に参加できると思います。

私は9月から部長になりました。来年度は私自身の目標の他に、一人一人が記録を伸ばすことと、リレーチームで入賞して全国大会に出場することを目標にしたいと思います。また私自身も積極的に参加して、部員みんながよい練習ができるようなサポートもしたいと思います。

行事・コンテスト・その他イベント

創立50周年記念事業

盛大に挙行された 「創立50周年記念事業」

創立50周年記念事業実行委員長
柳下 福藏

昭和37年(1962年)、国立工業高等専門学校の一校として設立された本校が創立50周年を迎えるにあたり、平成22年6月に学内に創立50周年記念事業実行委員会が組織され、教育後援会、同窓会との共催で本事業を実施することが決定された。

記念事業として、平成24年11月1日に開催する記念式典、記念講演会、祝賀会の他に、記念史の発行、記念モニュメントの設置、国際交流基金及び育英基金の設立を行うこととなり、8,257名の卒業生、在校生・保護者、卒業生就職先企業及び県東部の商工会議所・商工会に募金をお願いすることとなった。大不況の最中にもかかわらず、各位のご理解と卒業生の熱意により3,000万円弱の募金が集金できた。募金に際しては同窓会役員の母校愛に基づく英断によりこの金額が達成できたことに学校長として深く感謝申し上げます。

記念モニュメントは学生・教職員からデザインを募集し、応募19作品の中から選ばれた4作品を基に、美術の

非常勤講師・大塚節夫先生に最終案を完成していただいた。造形は、フルモールド法(特殊な鑄造法)で世界的に著名な(株)木村鑄造所・木村寿利社長(本社:駿東郡清水町)のご好意により、重量2トン、高さ1.8メートルの見事な作品に仕上げていただいた。正面玄関前の中庭に設置された記念モニュメント「成長の芽」の除幕式が平成24年10月4日に挙行され、その模様は静岡放送のテレビニュースで県内に広く報道された。

晴天に恵まれた平成24年11月1日、沼津市民文化センターで挙行された記念式典は文部科学省・山野審議官、国会議員代理、国立高専機構・小畑理事長、川勝静岡県知事、栗原沼津市長、豊岡三島市長、遠藤長泉町長をはじめとする多数の来賓のご臨席のもと、教職員、学生諸君の見守る中、厳粛に執り行われ、特に川勝静岡県知事の格調の高い祝辞は学生諸君を力強く激励する印象深い内容であった。引き続き行われたノーベル物理学賞受賞者・益川敏英先生の記念講演は本校の創立50周年に相応しい感銘深い内容であり、講演後の学生諸君からの素晴らしい質問が極めて印象に残った。

リバーサイドホテルで挙行された祝賀会は学校長挨拶に続く静岡大学・伊東学長、豊橋技科大・榎学長、長岡技科大・新原学長の祝辞、鏡開き後の小畑理事長の乾杯で宴たけなわとなり、静岡理工科大・荒木学長、東海大学・野須開発工学部長、(株)HKS・長谷川社長(本校機械1期卒)、西岡教育後援会長に続いて、東京から駆けつけ



られた渡辺周衆議院議員の各位から心のこもった祝辞を頂戴し、黄瀬川太鼓の景気づけで終宴となった。

平成24年12月1日、本校関係者、教育講演会役員、同窓会役員により創立50周年記念事業報告会が開催され、育英基金については現行の同窓会奨学金制度を継続いただき、国際交流基金のみの設立が了承された。一方、金利不足のため20年来据え置きとなっていた初代・井形校

体 育 祭

体育祭のあり方

体育祭実行委員長 鈴木 陽

教職員の皆様、学生会の皆様、ならびに体育祭実行委員の皆様、多大なるご支援ありがとうございました。今年度の体育祭は2012年5月9日と10月16日の2回実施されました。一昨年度・昨年度は1回の実施だったため、4、5年生の方にとっては従来の実施回数に戻ったかたちとなります。多くの学生が楽しみにしている行事であるため、より充実させようと準備させていただきました。

前期に行われたスポーツ大会を振り返ると、多忙な日々が思い起こされます。4月10日の始業式から1ヶ月弱で当日5月9日を迎えるため、新規スタッフ募集をする余裕もなく、準備期間中はただひたすら準備に明け暮れていました。当日は例年の半数ほどでの運営となりましたが、昨年度のスタッフや、学生係の皆様、学生会、クラスメイトの支援により、無事遂行することができました。

後期の体育祭では、例年とは違った試みとして、午前中の編成を変えさせていただきました。従来通りのまま

高 専 祭

高専祭を終えて

高専祭実行委員長 後藤 詩織

昨年11月3日、4日に「キセキ」をテーマとした47回高専祭が行われました。各学科の展示、ステージ企画、全校企画の人文字写真や巨大モザイクアート、校内装飾、大道芸やミニ四駆……今年度は沼津高専創立50周年ということもあり、見所の多い高専祭だったのではないのでしょうか。

高専祭は、学生のみならず先生方やその他職員の方々など、多くの人の協力によって成り立っています。なかでも高専祭を通して最も強く感じたことは、学生の力の大きさです。特に高専祭実行の主軸となるスタッフの活動は非常に大きな力となっています。スタッフ12部署(本

長の「井形奨学金」を国際交流基金に統合することが、ご遺族の井形直弘先生(東京大学名誉教授)に了承され、創立50周年記念国際交流基金が設立の運びとなった。

学内外の関係各位のご支援・ご協力により本校の創立50周年記念事業が盛大に成功裡に挙行できましたことに本校を代表して深く感謝申し上げます。

をご希望された方も多数いらっしゃいましたが、学科別の性質上、学科・学年を越えた交流が少ないため、試験的にこういった形式を採らせていただきました。競技に関しては好感触だったのですが、チーム制の意義があやふやになってしまったので、この点を踏まえ来年度へと活かしていきたい所存です。また、学生会企画として、競技時間以外のクラスはホームルームの黒板にテーマに沿った絵を描く、お絵かき企画を同時開催しました。任意参加形式でしたが、とても多くのクラスが参加してくださいました。クラスの特色が反映された絵は、高専祭展示へと繋がりました。

2回の行事を通して、人を動かす立場に立つことの難しさを痛感しました。小中学校で〇〇長と冠する役に就いた経験はありましたが、それらとは全く違い、重責を伴うことをこの経験から学びました。前期スポーツ大会の直前には、学校から運営予算と全学生の一日を預けられる責任感に苛まれました。前日と当日は常に活動していた為、とても大変でしたが、今となっては良い思い出です。

来年度の体育祭は、今年度の反省点をフィードバックして、学生全員が楽しめる行事にしたいと思います。体育祭が皆さんにとって待ち焦がれるような存在になれば幸いです。

部、企画、製作、総技研、借用、美化、キャンプファイヤー、喫茶、広報、会計、交通、学科プロジェクト)それぞれが欠かせない役割を担っており、それに所属する学生1人1人が高専祭を形作ってきました。

また沼津高専学生の素晴らしいところは、1～5年生、専攻科生という年の幅があるのにも関わらず、それぞれ





が工夫して高専祭を楽しもうとしていることです。スタッフでの活動は勿論のこと、スタッフに所属していない学生も、サボることなく積極的に出店や各学科の展示などをしていました。指示されたことに従うだけでなく、自らが考え行動できるところは、誇れる本校学生の特徴だと感じました。

高専祭は毎年成長しています。名前は「祭」でありながらもオープンキャンパスの役割も持つため、初めて来た方にもわかりやすく楽しんでもらえるような工夫が必要です。その実現に向けて、私たちは反省と改善を重ねてきました。大げさなようですが、高専祭にかける思いはこのくらい強いのです。これからもぜひ、沼津高専の特色が生きた高専祭を見届けていってください。

3年スキー合宿研修

3年生合宿研修報告

3学年合宿研修担当 長 澤 正 氏

「先生、重心を上下に移動したら、インストラクターからそれは昔の滑り方だと言われました。だめなんですか。」と初めてスキーをやった学生から質問されました。カービングスキーの普及で教え方も変わったようです。本校の学生はほとんどが静岡県生まれで、スキーの得意な学生は多くありません。合宿研修は、そんな学生にスキーを体験してもらおうと始まったと聞いております。高校の3年といえば、この時期大学受験など人生のターニングポイントを迎えております。本校での3年生は5年間のちょうど真ん中、4年から専門性の高い科目が増え、いよいよ本格的に技術者としての素養を身に付け始める時期になりますが、多くの学生は漫然と学生生活を送っています。そこで、「高専生活の意義を見直し、将来の目標を立てる」「己に挑戦し、物事を成し遂げる大切さを学ぶ」「親睦を深め、お互いを認め合う」という目的を掲げ、学生生活にメリハリをつけるという意味も込めて、毎年この合宿研修を実施しています。



ゲレンデは山梨県の「ふじてんリゾート」、宿泊は御殿場の国立中央青少年交流の家。日程は1月28日から2泊3日、初日は学校を出て直接スキー場へ向かいます。目の覚めるような青空のなか、スキー教室が始まりました。スキーの技術別に20班に分かれ、それぞれにインストラクターが付いて指導を受けます。初心者クラスはまったく初めての学生たち、初めてブーツをはいた学生から「こんなに動きにくいとは思わなかった。」といきなり憂鬱そうな声が聞こえてきました。スキーの付け方、立ち上がり方から始まり、何度も何度も坂を上っては下る練習に、やがて体力も気力もだんだんと失せていくのがわかります。インストラクターはそんな頃合いを見てリフトを使って坂の頂上へ連れて行きます。2日間にわたる延べ8時間のスキー教室で、初心者はスキーの楽しさを、スキー経験者はより上を目指す理論とテクニックを学ぶことができました。特に我流で滑っていた経験者は、教わることの大切さを知ったことと思います。

最終日には、本校の村松キャリアコーディネータに交流の家に御来所いただき、キャリア教育を実施していただきました。テーマは「海で遭難してしまった時に、必要なアイテムを5つ選べ」です。約8人が1グループとなってディスカッションし、各クラスの代表1チームが発表しました。珍答の続出でしたが、グループで討議し何らかの結論を導き出すことに意義があるとのこと。か



つて、高専生はプレゼン能力に欠けると言われて来ましたが、それぞれにユーモアを交え、聴衆をひきつけ、わかり易い発表で隔世の感を抱きました。

最後に遠山専攻科長による来年から始まるJABEEコー

ロボットコンテスト2012

ロボコン部のアルミ色の青春

ロボコン部顧問教員 青木悠祐

日頃よりロボコン部の活動へのご理解とご声援をありがとうございます。保護者の方をはじめ、OB/OGの皆さん、地域の方から大会が近付くにつれ、お声掛けいただけることをとても嬉しく思っております。今年度はヨシムラ薬局様と沼津仲見世商店街の皆様との共同企画としてロボコン部のロボットを展示する「ロボット祭り」を10月28日(日)に開催させていただきました。ロボコン部の活動を地域の皆さんに紹介することができ、部員たちにとっても大変有意義な場となりました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

さて、アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト、通称「高専ロボコン」の今年度の競技課題は、「ベスト・ペット」。様々な種類のペット・ロボットが高専生と協力して玉入れをする競技です。更に今回は高専ロボコンで初めて、コントローラーなしで競技を行いました。

沼津高専からはAチーム「V-to R (ビートル)」、Bチーム「あひるん (アヒルン)」の2チームが出場しました。メカらしさをアピールしたカブトムシと、進む方向を向きながら羽ばたくアヒル、どちらのチームもペットらしいロボットのアイデアを考え、部長C3福井君のもと、AチームリーダーS3橋爪君、BチームリーダーD4田

「勝つ」ために

ロボコン部 福井慧賀

「勝つ」ことで「活躍」しよう—今年度、ロボコン部は「勝躍(かつやく)」という目標を掲げ活動してきました。昨年度の大会では1勝こそしたものの、それも相手チームのロボットが動かなかったことによる判定勝ちでした。これでは「勝った」とはいえない、課題を着実にクリアし「競技」として勝ちたいという部員全員の思いから「勝てる」ロボットを目指して製作を行ってきました。

私は、試合直前にロボットのメンテナンスを行うピットクルーとして昨年度の大会に出場していました。そこで私は競技が始まる前から悔しさを感じていました。そ

ス開始の説明ですべての研修日程を終了しました。全日程を通じ好天に恵まれ、無事に研修を終えることができました。ご協力いただきました保護者の方々、関係教職員の皆様に深く感謝いたします。

中君を中心として総勢33名の部員たちが連日作業を進め、全国大会出場を目標に大会に臨みました。しかし、結果としてAチーム、Bチーム共にトラブルにより初戦敗退となりました。どちらのチームも安定していた歩行動作がトラブルにより不調となり、そのまま試合終了となってしまいました。昨年度に続き満足できない結果となってしまいましたが、その後、今年度を象徴するエピソードがありましたので紹介します。

初戦敗退となった後、これまでの部員たちであれば燃え尽きて何もできないか、気持ちを切り替えて他のチームのマシンを観察、研究していましたが、今年度は違いました。何が原因で動かなかったのかを分析し、すぐさま修理・改善を行い、敗戦30分後にはしっかり動作するロボットを創り上げました。そして審査委員の方や撮影クルーの方たちに自分達からアピールにいき、テレビ放映をご覧になった方はご存知かもしれませんが、きちんと動くマシンを放送していただくことができました。

勝負の世界は結果が全てです。試合開始のタイミングに最高の状態のロボットを間に合わせる事が何よりも重要で、きちんと動くマシンができていても本番で動かなければ意味は無いことは事実です。しかし、頑張った成果は必ず結果となって現れること、そして「勝つ」ためのロボットを創る力はあと少しのところまで来ていること、部員たちはこのことを何よりも実感した大会となりました。

来年こそは。この言葉が事実となるよう学生たちは動き始めました。今後ともロボコン部へのご声援をどうぞよろしくお願い致します。

これは、他高専がピット内でロボットの最終チェックを行っている中で、沼津高専はロボットの不具合のためにピット内で作業を続けているという状況で、「勝てない」ことに気がついてしまったからでした。このことから私自身に次回こそは勝ちたいという強い思いが生まれ、今年度の部長に立候補しました。

昨年度と同じことをしては「勝てる」ロボットは作れないと考え、昨年度までには行っていなかった新しい取り組みに挑戦しました。その中のひとつが上級生による下級生対象の講習会です。ロボコン部では競技課題を解決するためのアイデアから、ロボットを動かすための機構、制御するための回路まですべてを部員である学生のみで考え製作しなければなりません。そのため学校の授業で学ぶこと以外にも多くの知識が必要になります。このような知識を下級生が自主的に身につけられる

ように、最低限必要となる事柄を上級生が講師となって教えました。

新入生を迎えた4月はこのようにして活動してきましたが、競技内容が発表された5月からは本格的にロボット製作を開始しました。アイデア出しから設計、製作と進み、夏休みが始まった8月中は自宅から学校へ通い作業を続けました。しかし、現実には設計段階では分からなかった困難な部分も数多くあり、解決策を模索しながら製作を行ったため、作業の進行は予定より大きく遅れていきました。大会まで1か月となった9月でもロボットは完成しておらず、試走もままならない状態でした。私を含め自宅から通学している部員は通常の部活動終了

時刻以降も作業を続け、夜10時を回ることもありました。十分な準備を行うことができないまま大会を迎え、結果は1回戦敗退という非常に悔しいものとなってしまいました。

しかし、今年度行ってきたことは決して無駄ではなかったと私は思っています。それは昨年度以上に活発なロボット製作を行ったことに加え、新しい取り組みによって部員の積極性を向上させることができたからです。1回戦敗退という大会成績も「このままのロボコン部では勝てない」ことを示す1つの成果であると考えています。この「完全に負けた」経験を力に、来年度こそは「勝躍」の目標を達成したいと思います。

退職教職員から



海外へ目を向けて

制御情報工学科

大島 茂

これまでに多くの先生方が定年退職されるのを見送ってきましたが、ついに私の番が廻ってきました。本年3月末で定年退職致します。昭和53年3月16日に赴任して以来35年間勤めさせて頂きました。

昭和52年末に4年弱勤めた機械メーカーを退職し、沼津高専へ赴任するまでの間に2カ月間アメリカへ語学留学したのが私にとって初めての海外体験でした。長男が生まれて半年ほどの時期でしたので、日本に残った妻は大変心細かったと思いますが、快く送り出してくれました。この時の体験と強烈な印象が、私の生き方に大きな影響を与えました。

昭和62年の10月に当時の慶伊富長校長から命を受けて、ヒューストン大学を訪問することを目的とした2週間のアメリカ出張の機会を与えられました。この折に、M.S.O.E (ミルウォーキー・スクール・オブ・エンジニアリング)も訪れ、沼津高専と共通する教育理念で実践的技術者教育を推進していること、そして私の専門分野である油圧技術の教育・研究で充実した設備を整え活発に活動していることを知りました。この出張をきっかけに、海外の大学で研究してみたいという気持ちが強く生まれました。

この数年後、ウィスコンシン州の製紙機械メーカーの人事部長から、日本人技術者を雇用したいが、沼津高専の学生に希望者はいないかとの手紙が舞い込みました。

M.S.O.Eの副学長から私の名前を紹介されたとのことでした。幸いにもこの年の機械工学科5年生の中に、海外に出て働きたいという強い希望を持つ学生がおり、アメリカから人事部長が来日し面接試験が行われ採用されました。翌年にもう一人採用されました。

こんなこともあり、M.S.O.Eの副学長のキャノン博士と親しくなり、油圧技術研究所の研究アシスタントという立場で、平成4年～5年にかけて10カ月間M.S.O.Eに滞在させてもらえることになり、当時の工藤圭章校長から許可を頂き実現しました。この研修を通して、海外に目を向けることの大切さをいよいよ強く感じ、沼津高専の学生にも海外に出るチャンスを与えたいと考えようになりました。M.S.O.Eで親しくなったスタッフと計画を練り、平成8年に最初の海外研修を実行しました。17名の参加者があり、M.S.O.Eで3週間の語学研修と異文化体験のサマープログラムを実行しました。その後の13年間に10回を実行し、毎回引率させて頂きました。参加学生の中から、卒業後にアメリカの大学へ留学する学生が出るなど、海外に目を向けた学生を育てることに微力ながら役立てたことと嬉しく思っています。

平成12年には、水圧駆動技術の研究を新たに手がけるにあたり、その分野で世界をリードしているフィンランドのタンペレ工科大学で6カ月間の在外研究を経験させて頂きました。また、国際学会でできるだけ研究発表するようにも心掛け、海外に友人をつくることに楽しみを見出してきました。定年退職後は、これまで細々と勉強してきた中国語を使い物にするため、中国へ勉強に行きたいと計画しています。これからも海外に目を向けて人生を楽しんでいきたいと考えています。長い間たいへんお世話になり有難うございました。



思い出

技術長
石和嘉衛

この3月をもちまして定年退職を迎えます技術室の石和と申します。着任以来長きにわたり、学生の皆さんを始め教職員の方々にはお世話になり、たくさんのすばらしい思い出をいただき感謝しております。

学生との思い出は、山岳部に付き添い、南アルプスや北アルプスを縦走したり、有志と富士山に数多く登ったりし、山や人生について夜更けまで語り合ったことが思い出されます。

電気工学科の5年生とは、卒業の記念にと、後ろ立山を縦走した思い出があります。個人的には、奥秩父や富山県の剣岳を中心に山登りをし、登山に関する小説を読みあさっていたときもありました。

電気工学科では、加藤先生に電子回路工学を指導していただきました。当時流行りだした8bitのワンチップマイコンTK-85を応用したワンボードマイコンを設計し、何度も失敗を繰り返しながら半田付けを行い、回路を完成させました。その時の喜びは格別でした。当時は、電子部品が入手困難で、抵抗1本でも大事に扱った時代で

した。

濱屋先生にはマイクロ波工学について指導していただきました。伊豆沖で群発地震が発生していた時に、屋上にアンテナを張りめぐらせ、巨大なエネルギーによって岩盤が破壊するときに発生する低周波の波形を観測しました。地震が起きた時の周波数を調べるため、スペクトラムアナライザを用い、出てきた波形をタイムラプスビデオで録画し、学校に何日も泊まり込みデータを取りました。しかし、思うようにデータが取れなく断念した記憶があります。今日のように、デジタルシステムが発達していれば観測が出来たかもしれません。

この研究を元に、「高専におけるマイクロ波、電波工学の実験実習」についての論文を、高専教育、沼津高専研究報告集に投稿することができ、先生方には誠に感謝しております。

自分の経験を振り返って、学生の皆さんには、「一期一会」の言葉を送りたいと思います。同じ時に入学・入寮した友人とのつながりは、何物にも代え難いものです。自分一人の力ではなくグループで協力し合うことで、新しい発想が生まれたり目標を高めたりすることができると思います。そして、リスクを恐れず、目標を持って地道に努力することを期待しています。

最後に、これまで関わってくださった皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

卒業生・修了生から

かけがえない5年間

機械工学科5年 大坂邦彦

成人式を迎えて沼津高専での生活も残りわずかとなりました。あっという間に月日が流れていくとおっしゃっていた先輩方の言葉を今になってようやく理解しました。その言葉を聞いた当時の私は、日々の生活に慣れてどんどん時は経つものだと思っていました。しかし今では、自分を取り巻く様々なことを消化しきれず流されるように時は過ぎていくのだと感じています。

私は4年生まで寮生活を続けていました。最初はあいさつや点呼をはじめとした規則の多さに驚きましたが、学生主体の寮では大切なことだと思います。4月当初は上級生に言われるままに規則を守っていましたが、やがて各々の規則の守り方が出てきました。必ず相手の目を見てあいさつする人もいれば、状況に合わせて会釈をするのみの方もいました。どれが正解というわけではなく、その人の考えが行動に表れているのだと思います。このような環境で生活し、他人の行動から自身の考えを改め

行いを変えるきっかけになりました。他人の言動に間違いを感じることもありましたが、私は考えの幅を広げることが大切だと感じました。そして確固たる考えを持っていれば、それは何が正しくて何が間違いか自分の中ではっきりします。また自分と異なる考えを持つ人に出会ったときに反発するだけでなく、こういった考えもあるのではないかと疑問を持つことも重要です。さまざまな考え方、行いがあることを知り受け入れることで相手の気持ちや立場を考慮した行いができると思います。私が寮生活で大切だと感じたことは、思いやりでした。

最後に、勉強について自分の考えを述べようと思います。沼津高専は年に4回の定期試験があります。しかし、入学当初の私はどうやってテスト勉強をすればいいか全く分かっていませんでした。受験勉強も塾での受け身の形であったため、私は自分の勉強のやり方が分かっていなかったのです。最初の定期試験ではテスト週間中に偏った教科ばかり勉強し、他の教科にほとんど手を付けずにテスト当日を迎えていました。その後、友達やクラスメイトの真似をしながら単語帳やノートのとり方など試行錯誤を重ね、ようやく自分の勉強の形を作ることができました。勉強のやり方を考え実践し気づいたことは、す

ぐにベストの結果が出せるのではなく、ベターを積み上げてベストに近づいていくのだと思いました。

私は沼津高専で、勉強から人とのつながりまで多くの

5年間の高専生活で私の得たもの

電気電子工学科5年 土屋 惇

高専に入学してから早5年が経とうとしています。入学当初は、果てしなく長い道のりのように感じていましたが、こうして振り返ってみますとあっと言う間の5年間でした。中学3年の時、家電製品に興味があり家電製品を作りたいという理由から高専を志望したことをよく覚えています。私にとって大きな変化をもたらした5年間であったと思います。

高専入学したての私にとって、寮生活は衝撃でした。1日3回の点呼や細かい寮の規則など辛いと思うことも多々ありました。この寮生活で、社会に出て守って行かなければならないことを学びました。特に挨拶は、インターンシップや就職試験でも自然にできるようになり、大いに役立ちました。

授業や行事では、高専祭や体育祭など挙げればきりがありませんが一番印象に残っているのは4年時のPBLです。それまでの実験は、実験後、1週間以内にレポートを提出するものでした。実験に必要な機材等は先生が用意し、指導書に沿った実験を行うだけでした。それに対しPBLは、1つの課題をグループで半年にわたって1から仕上げていくというものでした。まず実験に必要な機材・素子等を、自分たちで選ばなければなりません。様々な資料から自分たちが最適であると考えた素子を選ぶことは難しく、班員間での情報共有が大切になりました。また、1つのものを作るのに多くの条件を考えなければ

目標と成長

電子制御工学科5年 富岡 悠二

沼津高専に入学してから間もなく5年が経ち、いよいよ卒業する日が近づいてきました。私が高専に入学した頃は、卒業後には大学に編入し、その後大学院に入学するという夢がありました。最終的に進路は専攻科へと変わり、希望の研究室に入ることもでき、今年の春に無事卒業を迎える予定です。そこで、この卒業を機に高専での5年間を振り返りたいと思います。

私は高専に入学してすぐに入寮し、寮生活が始まりました。入学当初はなかなかじめず、ホームシックになることも多々ありました。しかし、GWを過ぎる頃には寮生活にも慣れ、友人も増えて寮での生活が楽しく感じ

経験をしました。これは私と関わりを持ってくださった方々のおかげです。そのことに感謝するとともに、この沼津高専で学べたことを誇りに思います。

ならないことに驚きました。PBLを通し、人とのコミュニケーションや、期限が決まっている中、課題を行うことでスケジュール管理の重要性が実感できました。

4年生はPBL以外にも進路を決めなければならない時期でもありました。私は入学した当初から就職を考えていましたが、初めは働くという実感が無く、なんとなく過ごしていました。しかし、インターンシップで社員の方の仕事に対しての情熱を見て、働くという実感がわか次第にそこで働きたいという願望に変わっていきました。インターンシップは、会社選びの強力な材料となり、非常に重要なものであると私は思います。インターンシップで良い会社



に出会えば、会社選択を早め就職準備の期間を長くとることができ、このおかげで内定をいただけたと思います。高専は内定時期が早いので、入社後の準備をする時間が取れます。私はその時間を利用し、入社1年目の取得が義務付けられている、第一級陸上特殊無線技士の資格を取得することができました。

最後に、各教科の担当の先生方、強気にバックアップしてくれた各学年の担任の先生方、就活時に何度も相談にのってくださったキャリアカウンセリングの先生方、5年間お世話になりました。ありがとうございました。

られるようになりました。また、1年次の終わりには寮の役員に興味を持ち、2年次に階長として下級生の指導などを行うことで、指導者としての良い経験を積むことができました。

学業に関しては特に大きな成長ができたと思います。私の1年次の成績は、寮生活の大変さや授業の難しさなどがあったため、あまり良い方ではありませんでした。特に数学は進むペースが速く、また苦手な文系教科もあったため成績は思うように伸びませんでした。しかし、2年次には寮生活にもなれ、自分にあった「他人に勉強を教える」というスタイルの勉強法を見つけることができました。その結果、2年次初めの試験で10位以内に入ることができました。この時から私の成績とともに友人の成績も上がるようになりました。そして、最終的に5年次には、入学当初では考えられなかった、クラストップの成績を取ることができました。この勉強法の発見は、

学業の面に関して私自身を大きく成長させ、また他人に勉強を教えることでその重要性を知ることができました。

進路については4年次の後期に大きな変化がありました。前述のように、私は入学当初は大学編入を考えていました。しかし、4年次の後期には成績の低下や低いTOEICスコアを獲得したこともあって、勉強に対する自信を失っていました。また、受験勉強もまだ始めていな

かったため、当時の状態で希望する大学へ編入するのは非常に厳しいと考えました。そこで、最終目標はあくまで希望する大学院に入学することだったため、急遽進路を変更し、専攻科で更に勉学に努める道を選びました。本科はあと少しで卒業ですが、新たに定めた目標に向け、専攻科でも努力を積み重ねていきたいと思います。

今だから言えること

機械・電気システム工学専攻2年
谷口友紀

私は7年前の春、電気電子工学科に入学しました。7年という年月は長く感じますが、今思えば本当にあっという間だった気がします。楽しかったことや辛かったことなど思い出を挙げればきりがないので、ここでは専攻科でのことに限定して書きたいと思います。

私が専攻科への入学を決めたのは4年の時で、それまでは、まさか同じ学校に7年も通うことになろうとは思っていませんでした。専攻科入学当初は大学への編入に比べ変化のない生活と、友人が少なくなってしまったことにつまらなさを感じていましたが、今では自分のために使える時間の多い専攻科でよかったと思います。専攻科では本科と異なり、授業は午前中のみで午後は各自の研究の時間となっています。研究は担当教員の指導のもと進めますが、基本的に今やるべきことは何か、いつまでに終わらせなければならないのかなど、自分で考え行動する必要があります。また、研究以外にも実験や授業の課題などがあり、なかなか忙しい日々を送ることになります。さらに2年次には専攻科最大の目的である学位授与試験に向けて論文を作成し、試験に備える必要があります。これでは専攻科生に自由な時間など無いように感じますが、正直どうなるかは本人のやる気次第です。そして1番の自由が異様に長い長期休暇です。日頃の研

究をどれほど真面目にやるかで人によって異なりますが、長期休暇のほとんどは自分の好きなように使うことができます。私の研究に対する姿勢については触れないでおきますが、とりあえず長期休暇は満喫しました。私の趣味はバイクでツーリングに行くことなのですが、夏休みを利用し1年次には北海道へ、2年次には石川県へ一人旅に行きました。静岡ではまず見るできない北海道の雄大な景色に感動し、石川では砂浜をバイクで走るという少し珍しい体験をしました。どちらの旅でも現地でも多くの人との出会いがあり、とてもよい経験となりました。また、もう1つ専攻科でよかったという理由に就職のしやすさがあります。私は当初、自由応募で就職活動を進めていたのですが、参加した合同説明会などでは周りの大学生と就職に対する意識に差を感じ、その後の就職活動に不安を感じたことを覚えています。そんな時、学校に来た求人の中に希望する企業があり、学校推薦という形で応募し内定をいただくことができました。一般の大学生に比べれば遥かにスムーズに決まったと思います。

以上のことから私は、自由度の高い高専・専攻科生活をぜひ有効に使って欲しいと思います。趣味に費やすもよし、アルバイトをするもよし、もちろん勉強でもよし。とにかく何か好きなことを見つけ、存分に楽しんでいるうちに自分のためになることがきっと得られると思います。

最後になりましたが、7年間お世話になった先生方、友人、両親に感謝申し上げます。



私の高専時代



1976年4月

あとになって わかること

機械工学科14期生
井上 聡

私が高専に在学したのはいまから約35年前、携帯電話などまだ夢の時代であった。私にとっての高専時代とは、いま思えば後悔の連続であったように思える。充実して満ち足りていて自慢できるようなものではない。

私はパイロットになりたかったのだが、この学校の居心地のよさに甘えて、本気で当時の航空大学校に挑戦しなかった。このことがいまも強烈な後悔として残っている。挑戦して失敗したなら諦めもついたのであるが、何もせぬまま……野球でいえばバッターボックスでボールを見送るところかバッターボックスにさえ立たなかったことを悔んでいる。

ほかにもいろいろ……何もできないまま大切な人を失ったり、やりたいことも思い描くだけで何一つ形にできず、

進路も強い意志をもったわけでもなく……どれも本気になれず決断できず中途半端なまま。クラブも指導者がいないことをいいことにテキストに楽しく……もちろん体育大会でも高校生との試合でも勝てるはずがなかった。それでもなんとも思わなかった。本気でやっていなかったからだろう。

それでも多くの仲間巡りにあいて、当時の隔離されたこの環境で過ごした記憶は鮮明である。高専で何を学んだのだろう……との問いかけに自分は答えることはできない。しかし、この時代の記憶や経験が後の自分の生き方に大きく影響していることは間違いなさそうである。若いときには気づかなかったが今ぐらいの年齢になると強くそれを感じる。人それぞれに必要なものが必要なきに用意されている。後悔が必要な人には後悔が、成功体験が必要な人には成功が。その評価なり経験はそのときではなく相当あとになってわかったり活かされたりするものなのだろう。私の高専時代にもその当時の私に必要なものが用意されていたのだと、やっとこのごろ思えるようになった。

学生の研究活動 (2012.5.1~2013.4.30)

論文発表

(学生が第二著者等であってもすべて記載。)

機械工学科 (機械・電気システム工学専攻の機械コース含む)

学科・学年	著者名 (共著含) (筆頭著者に○)	論文誌名、巻号 (年) 頁	論文題名	指導教員
ME 2	○長谷川智洋 三谷祐一朗	沼津工業高等専門学校研究報告 第47号 (2013)	慣性ロータを用いた倒立振り実験教材の開発	三谷祐一朗

電気電子工学科 (機械・電気システム工学専攻の電気コース含む)

学科・学年	著者名 (共著含) (筆頭著者に○)	論文誌名、巻号 (年) 頁	論文題名	指導教員
ME 2	○原田蒼太 佐藤憲史	沼津工業高等専門学校研究報告 第47号 (2013)	高速デジタル信号の評価	佐藤憲史
ME 1	○望月孔二 勝又一穂	沼津工業高等専門学校研究報告 第47号 (2013)	周波数-電圧変換回路の設計	望月孔二
ME 2	○谷口友紀 高野明夫	沼津工業高等専門学校研究報告 第47号 (2013)	交流電動機の瞬時トルク検出装置の制作	高野明夫
ME 1	○高野明夫 荻島広也	沼津工業高等専門学校研究報告 第47号 (2013)	電動補助車椅子の等価回路的考察による昇圧チョッパの回生制御	高野明夫
ME 2	○野毛 悟 小西顕太郎	電子情報通信学会 電子部品・材料研究会 技術研究報告 CPM2012-28 (2012) pp.19~22	コンタクトエピタキシャル法による酸化物結晶薄膜の形成	野毛 悟
ME 2	○小西顕太郎 野毛 悟	沼津工業高等専門学校研究報告 第47号 (2013)	ZnO系透明導電膜の作製と評価	野毛 悟
ME 2	○野毛 悟 小西顕太郎	沼津工業高等専門学校研究報告 第47号 (2013)	下地基板の影響を軽減した磁気光学結晶薄膜の形成	野毛 悟

電子制御工学科 (制御・情報システム工学専攻の制御情報システムコース含む)

学科・学年	著者名 (共著含) (筆頭著者に○)	論文誌名、巻号 (年) 頁	論文題名	指導教員
E 5 D 5 S 5 M 5	○望月孔二 舟田敏雄 川上健誠 勝又和彦 坂本孝将 押切元也 岩瀬佑勝 杉田庭久 大庭木悠 宮沼太積	沼津工業高等専門学校研究報告 第47号 (2013)	技術者教育のための電気電子回路実験・演習の改定 (2) : 拡張型Bonhöffer-Van der Pol方程式の数値解析例	舟田敏雄
E 5 D 5 M 5	○望月孔二 舟田敏雄 坂本和彦 宮内太積 大庭勝久 青木悠祐	沼津工業高等専門学校研究報告 第47号 (2013)	4つの単振子をバネで繋いだ連成振動系の強制振動 (2)	舟田敏雄
E 5 D 5 M 5	○望月孔二 舟田敏雄 勝又和彦 大庭勝久 青木悠祐 宮内太積	沼津工業高等専門学校研究報告 第47号 (2013)	環 (円管) 状振子の非線形連成振動解析 (3)	舟田敏雄
E 5 D 5 M 5	○望月孔二 舟田敏雄 勝又和彦 坂根上純 大庭勝久 青木悠祐 宮内太積	沼津工業高等専門学校研究報告 第47号 (2013)	環 (円管) 状振子の非線形連成振動解析 (4)	舟田敏雄
E 5 D 5 M 5	○望月孔二 舟田敏雄 勝又和彦 坂根上純 大庭勝久 青木悠祐 宮内太積	沼津工業高等専門学校研究報告 第47号 (2013)	環 (円管) 状振子の非線形連成振動解析 (5)	舟田敏雄
E 5 D 5 M 5	○舟田敏雄 勝又和彦 坂本孝将 大庭勝久 青木悠祐 望月孔二 宮内太積 川上健誠	沼津工業高等専門学校研究報告 第47号 (2013)	技術者教育のための工学数理の力学教材の改定 (33) : 半円筒上の棒の非線形振動解析	舟田敏雄
M 5 D 5 E 5	○宮内太積 舟田敏雄 勝又和彦 坂本孝将 大庭勝久 青木悠祐 望月孔二 川上健誠	沼津工業高等専門学校研究報告 第47号 (2013)	半楕円体の振動実験と外部励振による非線形振動の数値解析 (1)	舟田敏雄
D 5 M 5 E 5	○大庭勝久 舟田敏雄 勝又和彦 坂本孝将 青木悠祐 宮内太積 望月孔二 川上健誠	沼津工業高等専門学校研究報告 第47号 (2013)	技術者教育のための工学数理の力学教材の改定 (32) : アルキメデスの楕円コンパスによる振子の自由振動	舟田敏雄

学科・学年	著者名(共著含) (筆頭著者に○)	論文誌名、巻号(年)頁	論文題名	指導教員
D5 M5 E5	○川上誠 舟田敏雄 勝又健彦 坂本和彦 大庭勝久 青木悠祐 大沼巧積 宮内太積 望月孔二	沼津工業高等専門学校研究報告 第47号 (2013)	技術者教育のための工学数理の力学教材の改定(34):アルキメデスの楕円コンパスによる振子の外部励振	舟田敏雄
M5 D5 E5	○川上誠 舟田敏雄 望月孔二 勝又健彦 坂本和彦 大沼巧積 青木悠祐 大庭勝久 宮内太積	沼津工業高等専門学校研究報告 第47号 (2013)	技術者教育のための電気電子回路実験・演習の改定(3):Li'enard方程式のリミットサイクルの個数とその安定性の数値解析	舟田敏雄
D5 M5 E5	○青木悠祐 大庭勝久 舟田敏雄 大沼巧積 勝又健彦 坂本和彦 宮内太積 川上誠	沼津工業高等専門学校研究報告 第47号 (2013)	技術者教育のための工業力学教材の整備(8):剛体の運動解析	舟田敏雄
D5 M5 E5	○大庭勝久 青木悠祐 大沼巧積 川上誠 勝又健彦 坂本和彦 宮内太積 舟田敏雄	沼津工業高等専門学校研究報告 第47号 (2013)	技術者教育のための工業力学教材の整備(6):理科教育・理科教材開発支援の試行	舟田敏雄
D5 E5 M5	○大庭勝久 勝又健彦 坂本和彦 安田昇平 石金佑介 斉藤志歩 舟田敏雄 大沼巧積 青木悠祐 川上誠 望月孔二 宮内太積	沼津工業高等専門学校研究報告 第47号 (2013)	様々な振子実験の出前授業の実施報告	舟田敏雄
D5 M5 E5	○川上誠 舟田敏雄 望月孔二 坂本和彦 勝又健彦 押切孝将 岩瀬元也 杉田佑也 大沼巧積 青木悠祐 大庭勝久 宮内太積	沼津工業高等専門学校研究報告 第47号 (2013)	技術者教育のための電気電子回路実験・演習の改定(4):結合Bonhöffer-Van der Pol方程式の数値シミュレーション	舟田敏雄
DS2 DS1	○渡邊俊哉 渡邊優太郎 大庭勝久	沼津工業高等専門学校研究報告 第47号 (2013)	専攻科生による学習支援活動の取り組み報告	大庭勝久
研究生	○鈴木智大 大庭勝久 伊井雅俊	沼津工業高等専門学校研究報告 第47号 (2013)	FPGAを用いた温度流速計における遅延補償系の構築	大庭勝久

学科・学年	著者名(共著含) (筆頭著者に○)	論文誌名、巻号(年)頁	論文題名	指導教員
D 5	○富岡悠二 梅原優太 片山晃次郎 西村和真 青木悠祐 大沼巧 佐々木俊亮	沼津工業高等専門学校研究報告 第47号 (2013)	工学基礎実験のための歩行ロボット教材開発	青木悠祐

制御情報工学科 (制御情報システム工学専攻の制御情報システムコース含む)

学科・学年	著者名(共著含) (筆頭著者に○)	論文誌名、巻号(年)頁	論文題名	指導教員
S 5	○藤尾三紀夫 石原賢太 川口龍樹	沼津工業高等専門学校研究報告 第47号 (2013)	拡張現実感技術を応用した超音波ガイド下穿刺手技支援システムの開発	藤尾三紀夫

物質工学科 (応用物質工学専攻含む)

学科・学年	著者名(共著含) (筆頭著者に○)	論文誌名、巻号(年)頁	論文題名	指導教員
C B 2 C B 1	○芳野恭士 宮本潤基 間部涼祐 近藤郁美子	技術・教育研究論文誌, 19巻2号 (2012) pp.51~61	<i>Salacia reticulata</i> のマウス接触皮膚炎抑制作用	芳野恭士
C B 2	○芳野恭士 大石駿介 橋本美弥 間部涼祐	沼津工業高等専門学校研究報告 第47号 (2013)	廃プラスチック油を利用したポリマー合成の試み	芳野恭士

講演発表

(登壇者が学生の場合又はそれに相当する場合のみ記す。講演論文集が4頁程度であっても講演発表に含める。なお、賞を受賞した場合は赤字で記載する。)

日本コンピュータ化学会2012春季年会/東京工業大学/ 2012.5.18

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
CB2	大石駿介	分子動力学シミュレーション結果解析用可視化ソフトウェアの開発(大川政志)	大川政志

ROBOMECH 2012 in HAMAMATSU/アクトシティ 浜松/2012.5.27~29

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
DS1	飯谷健太	超音波診断手技解析を目的としたプローブアプローチ計測系の構築(瀧村功、刑部勝也、古橋知大)	青木悠祐
DS2	杉山隆介	超音波診断・治療ロボットのためのファジィ推論を用いたリンク長可変システムの構築(脇坂久、吉川直之、古山祐輔、鈴木誠一)	青木悠祐

第19回セルロース学会年次大会/名古屋大学/ 2012.7.12

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
DS2	渡邊俊哉	交流高電界下における β 無極性高分子材料の電界発光と損失電流の関係(豊橋技術科学大学 電気電子情報工学科 准教授 村上義信)	遠山和之

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
DS1	渡邊優太郎	インパルス印加時の高分子絶縁材料の高電界誘電特性(豊橋技術科学大学 電気電子工学系 准教授 村上義信)	遠山和之
DS2	坂代一弥	渦法の粒子-格子間相互作用における $\exp(x)$ の高速計算法の提案と性能評価(坂代一弥、出川智啓)	出川智啓
CB2	見原翔子	ペーパーセラミック糖化酵素生産菌の探索(片平光、蓮實文彦、竹口昌之)	竹口昌之

19th International SPACC - CSJ Symposium/ 北海道大学/2012.8.3

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
CB2	新美茉莉	The Development of newly Diagnostic Method of the Digestive Organs Cancer using Porphyrin Metabolites in Feces (Ashikawa, Takeguchi, Hasumi)	蓮實文彦

電気学会 産業応用部門大会/明治大学/2012.8.21

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
DS1	馬飼野祐貴	全域駆動可能な拡張誘起電圧モデルを用いた位置センサレス制御におけるパラメータ誤差の影響(大沼巧)	大沼 巧

日本機械学会2012年度年次大会/金沢大学/2012.9.10

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
研究生	鈴木智大	FPGAを用いた熱流束計測システムにおける遅延補償系の構築	大庭 勝久
DS1	脇坂 久	超音波診断・治療補助ロボットのためのプローブ回転・旋回機構の開発(杉山隆介、梅原優太、富岡悠二)	青木 悠祐
DS1	飯谷 健太	超音波診断手技計測インターフェースを用いたプローブアプローチ実験(濱村功)	青木 悠祐

ETロボコン2012東海地区大会/浜松市勤労会館Uホール/2012.9.15

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
D5	山田 悠太 野澤 雅利 齊藤 亮博	ETロボコン競技プログラムのモデリングと実装	牛丸 真司

2012年度精密工学会秋季大会/九州工業大学 戸畑キャンパス/2012.9.16

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
DS2	山梨友里恵	心疾患治療における体外循環に用いる拍動流発生装置の開発—動物実験におけるモニタシステムの有用性の検証—(藤尾三紀夫、稲盛修二)	藤尾三紀夫
CB2	谷口 勇貴	セルラーゼによるペーパーラッジ糖化反応へのタンパク質添加効果(竹口昌之、蓮實文彦)	蓮實文彦
CB1	見原 翔子	<i>Geobacillus</i> sp.由来セルラーゼによるペーパーラッジの糖化(蓮實文彦、竹口昌之)	竹口昌之

日本ロボット学会第30回記念学術講演会/札幌コンベンションセンター/2012.9.17~20

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
DS2	杉山 隆介	仰臥位・側臥位検査を可能とする超音波診断・治療補助ロボットシステムの設計(脇坂久、飯谷健太)	青木 悠祐

平成24年度 電気関係学会東海支部連合大会/豊橋技術科学大学/2012.9.23~25

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
D5	勝又 健彦 坂本 和彦	環(円管)状振子の非線形連成振動解析と計測(望月孔二、根上純、舟田敏雄、勝又健、坂本和彦、大庭勝久、青木悠祐、宮内太積)	舟田 敏雄
ME2	岩崎 和希	画像情報と振動を活用した視覚障害・高齢者支援システムの開発—第1報 システム概要と基礎検討—	山崎 悟史

The Conference on Electrical Insulation and Dielectric Phenomena/Montreal/Canada/2012.10.14~2012.10.17

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
DS2	渡邊 俊哉	High Field Dielectric Properties of Nonpolar Polymeric Films	遠山 和之
DS1	渡邊優太郎	Electroluminescence and Dissipation Current due to Impulse Superimposed on ac Voltage in LDPE	遠山 和之

第2回CSJ化学フェスタ2012/東京工業大学 大岡山キャンパス/2012.10.17

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
C5	中村 龍貴	希土類イオン含有imogoliteの合成(船津大輔、八木彩織、佐藤恭介、間宮賢太、大川政志)	大川 政志
DS2	坂代 一弥	Vortex-in-Cell法の粒子—格子間相互作用に対する逐次更新計算法(坂代一弥、出川智啓)	出川 智啓

International Symposium on Technology for Sustainability/タイ王国/2012.11.21~24

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
CB2	橋本 美弥	Novel Oxidation Reaction System for Alcohol Compounds in the Presence of TiO ₂ Under UV Irradiation	押川 達夫

第19回電気学会東京支部沼津・山梨支所研究発表会/東芝キャリア/2012.11.22

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
ME2	谷口 友紀	交流電動機の瞬時トルク検出装置の製作と始動トルクの観測(高野明夫)	高野 明夫
ME1	荻島 広也	昇圧チョップパによる電動補助車椅子の回生制動走行(高野明夫)	高野 明夫

第41回モード解析研究会(文献講読会)/御殿場高原ホテルBU/2012.11.26

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
DS2	佐藤正英	Identification of hysteretic systems using self-adaptive optimization (ISMA2012)	鄭 萬 溶
DS2	阪本 寛	Structural health monitoring of steel trusses using acoustic emission technique (ISMA2012)	鄭 萬 溶

第7回静岡県東部テクノフォーラムin沼津高専/沼津工業高等専門学校 図書館/2012.11.30

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
DS1	渡邊優太郎	エポキシ/シリカ・ナノコンポジットの交流高電界下での電荷挙動	遠山和之
DS2	金子裕哉	流星バースト通信路の容量推定法について(長澤正氏)	長澤正氏

富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2012/ふじさんメッセ/2012.12.10

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
ME2	原田蒼太	高速デジタル信号の評価	佐藤憲史
ME1	室伏由喜菜	金環日食時における太陽光強度と温度の測定	佐藤憲史
ME1	勝又一穂	計測システムに適用する周波数-電圧変換回路の設計・製作	望月孔二
ME1	荻島広也	回生制動による電動車椅子の制御(高野明夫)	高野明夫
ME1	鈴木駿太	極ゼロ相殺法による二相リラクタンスモータの制御(高野明夫)	高野明夫
ME2	谷口友紀	交流電動機の瞬時トルク検出器の制作と過渡トルク観測に関する研究(高野明夫)	高野明夫
ME2	小西顕太郎	ZnO系透明導電膜の作製と評価	野毛 悟
ME2	中野賢太	ダイバータ表面での粒子輸送シミュレーション	西村賢治
ME1	室岡 亨	ステレオカメラとWiFiアダプタによる電波強度分布の測定	嶋 直 樹
ME2	奥野弘人	人体通信における腕モデルの検討	嶋 直 樹
ME2	水口隼也	植物の生長画像処理システムに関する研究	眞鍋保彦
D5	勝又 健 坂本和彦	環(円管)状振子の非線形連成振動解析(勝又健、坂本和彦、舟田敏雄)	舟田敏雄
DS2	金子裕哉	流星バースト通信路の容量推定法について(長澤正氏)	長澤正氏
DS2	佐藤正英	パラメータの微小変動を伴う剛体ブロックのロッキング振動	鄭 萬 溶
DS2	阪本 寛	母音のフォルマント構造と基本周波数推移を用いた話者判別	鄭 萬 溶

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
DS1	村瀬慶和	騒音環境における音声信号による話者判別	鄭 萬 溶
DS1	諏訪佑介	広域道路網における交通流シミュレーションシステムの開発	鄭 萬 溶
D5	増田圭祐	内部に空洞をもつ樹脂棒の欠陥診断	鄭 萬 溶
DS1	原川義樹	二方向流速計測用センサの角度検定装置の開発	大庭勝久
研究生	鈴木智大	温度流速計における空間分解能の向上に関する研究 機械・電子制御・ロボット部門 優秀ポスター賞	大庭勝久
D5	石金佑介	FPGAを用いた極低速流れの流速計測法に関する基礎研究(安田昇平)	大庭勝久
ME2	宮地将大	同調を考慮した学習戦略と生得的行動決定戦略の進化モデル	江上親宏
D5	吉田拓馬	van der Pol型結合振動子系のリミットサイクルの多重性	江上親宏
D5	久保田圭一	永久磁石同期モータの位置センサレス制御(大沼巧)	大沼 巧
D5	梅原優太	モーションキャプチャシステムを用いた超音波検査技師の熟練手技解析(飯谷健太) 機械・電子制御・ロボット部門 優秀ポスター賞	青木悠祐
D5	片山晃次郎	超音波診断・治療補助ロボットのための空気圧シリンダを用いたファジィ制御(杉山隆介) 機械・電子制御・ロボット部門 優秀ポスター賞	青木悠祐
D5	富岡悠二	生体信号に基づいた超音波プローブ走査時の疲労計測システムの構築(飯谷健太)	青木悠祐
D5	西村和真	人との協調動作を可能とする超音波診断・治療補助のための冗長自由度アームの設計(脇坂久)	青木悠祐
DS2	山梨友里恵	心疾患患者治療における体外循環に用いる拍動流発生装置の開発—モニタシステムの開発—(藤尾三紀夫、稲盛修二)	藤尾三紀夫
S5	杉山大輔	画像処理による動作認識のHMIへの適用に関する研究(藤尾三紀夫)	藤尾三紀夫
S5	川口龍樹	カテーテル治療におけるモーション入力システムの開発(藤尾三紀夫) 医療・健康・食物部門 優秀ポスター賞	藤尾三紀夫
S5	長谷川充	医療用酸素ボンベの残量計の開発(藤尾三紀夫)	藤尾三紀夫
ME2	岩崎和希	画像情報と振動を活用した視覚障害・高齢者の歩行支援システムの開発 情報通信・コンテンツ部門 優秀ポスター賞	山崎悟史

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
ME2	岡村 尊史	水質改善に向けた門池内流れの解析	松本 祐子
CB1	谷口 勇貴	セルラーゼによるペーパーラッジ糖化反応へのタンパク質添加効果(竹口昌之、蓮實文彦) バイオ・生物部門 優秀ポスター賞	蓮實 文彦
CB2	新美 茉莉	糞便由来ポルフィリン類をマーカーとした新規消化管癌検出法の開発(芦川、渡部、竹口昌之、蓮實文彦)	蓮實 文彦
CB2	間部 涼祐	コトラヒムブツのマウス腸管免疫系に対する作用(芳野恭士、金高隆、古賀邦正)	芳野 恭士
CB1	近藤郁美子	コトラヒムブツのマウス皮膚炎に対する抑制作用(芳野恭士、金高隆、古賀邦正)	芳野 恭士
CB2	大石 駿介	分子動力学シミュレーション結果解析用ソフトウェアの開発(大川政志)	大川 政志
CB1	見原 翔子	ペーパーラッジ糖化酵素を有する微生物の探索とその酵素特性(藤原光、徳山真治、蓮實文彦、竹口昌之)	竹口 昌之
C5	渡邊 聖人	チャ育種のためのチャおよびツバキの染色体解析(高橋映莉乃、古川一実)	古川 一実
C5	長岡 加奈	疎水化酸性多糖ーリン酸カルシウムナノ粒子の合成と機能	山根 説子

第26回数値流体力学シンポジウム/国立オリンピック記念青少年総合センター/2012.12.18

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
DS2	坂代 一弥	漸化式によるVortex in Cell法の粒子-格子間相互作用の高速化とその誤差評価(坂代一弥、出川智啓)	出川 智啓

第18回高専シンポジウムin仙台/仙台高専名取キャンパス/2013.01.26

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
ME2	小西 顕太郎	ZnO系透明導電薄膜の作製と評価	野毛 悟
E5	浅利 司	コンタクトエピ法を用いた機能性薄膜の作製	野毛 悟
E5	伊東 純	NI ELVIS II ⁺ を用いた基礎工学実験の試行	野毛 悟
D5	石金 佑介	低速気流の熱線計測に向けた検定装置の開発	大庭 勝久
D5	安田 昇平	熱線流速計の性能向上に関する研究	大庭 勝久
ME2	宮地 将大	学習戦略と生得的行動決定戦略の進化モデルへの同調要素の導入	江上 親宏
D5	田代 純也	4槽結合BZ振動子系の同期タイプの分類	江上 親宏

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
D5	吉田 拓馬	van der Pol型結合振動子系にみられる周期解の多重存在性	江上 親宏
D5	梅原 優太	モーションキャプチャシステムを用いた超音波診断手技計測システムの構築(飯谷健太)	青木 悠祐
D5	片山 晃次郎	超音波診断・治療補助ロボットのための電動/空気圧アクチュエータ制御システムの構築(杉山隆介)	青木 悠祐
D5	富岡 悠二	超音波診断時の疲労計測を目的とした生体信号計測システムの構築(飯谷健太)	青木 悠祐
D5	西村 和真	超音波診断・治療補助のためのCFRP複合材を用いた冗長自由度アームの設計(脇坂久)	青木 悠祐
CB2	橋本 美弥	光触媒およびシリカゲル有機修飾触媒によるベンジアルアルコール類の酸化反応	押川 達夫
CB2	間部 涼祐	コトラヒムブツ (<i>Salacia reticulata</i>) のマウス腸管免疫系に対する影響(芳野恭士、金高隆、古賀邦正)	芳野 恭士
CB1	近藤郁美子	コトラヒムブツ (<i>Salacia reticulata</i>) のマウス皮膚炎抑制作用(芳野恭士、金高隆、古賀邦正)	芳野 恭士
C3 C1	芳野 文香 芳野 広起	2009年~2011年における門池の水質の変化(芳野恭士、竹口昌之)	芳野 恭士
C4	秋山 沙理奈	沼津高専 宇宙大豆プロジェクト—宇宙の旅を終えたダイズその後—(斎藤拓弥、吉永孝行、遠藤みのり、寺前香里、宮口直也、芳野文香、伊藤輝、古閑笑実香、中根大樹、布施遥、土也知輝、土屋陽香、近藤郁美子、谷口勇貴、新美茉莉、見原翔子、河村慧、郷智裕、千賀淳平、中戸川奨、福田洸平、山根説子、藁科知之、山田祐一郎、蓮實文彦、押川達夫、後藤孝信、竹口昌之、芳野恭士、古川一実、株式会社リバネス宇宙大豆プロジェクト)	古川 一実

日本化学会春季年会/立命館大学/2013.3

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
CB1	谷口 勇貴	酵素によるペーパーラッジ糖化反応へのタンパク質添加の影響(竹口昌之、蓮實文彦)	蓮實 文彦
CB2	新美 茉莉	ポルフィリン類をマーカーとした新規消化管癌検出法の開発(芦川靖、渡部聡、竹口昌之、蓮實文彦)	蓮實 文彦

第15回化学工学会学生発表会/山形大学/2013.3.2

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
CB1	見原翔子	<i>Geobacillus</i> sp. NTS46株由来ペーパースラッジ糖化酵素の同定(藤原南帆、蓮實文彦、竹口昌之)	竹口昌之

電気学会モータドライブ、家電・民生合同研究会/電気学会/2013.3.7

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
D5	伊庭達哉	永久磁石同期モータの最大トルク応答制御(馬銅野祐貴、大沼巧)	大沼巧

日本機械学会 北陸信越支部 第50期総会・講演会/福井大学 工学部/2013.3.9

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
D5	坂本和彦 勝又健	2点吊り振子の非線形連成振動の数値解析 振り振動を中心として(宮内太積、舟田敏雄、望月孔二、大庭勝久、青木悠祐、川上誠、坂本和彦、勝又健)	舟田敏雄

第20回学生会員卒業研究発表講演会/東京工業大学 大岡山キャンパス/2013.3.13

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
S5	川口龍樹	カテーテル治療におけるモーション入力システムの開発(杉山大輔、藤尾三紀夫)	藤尾三紀夫
S5	杉山大輔	画像処理による動作認識のHMIへの適用に関する研究(川口龍樹、藤尾三紀夫)	藤尾三紀夫
DS2	山梨友里恵	心疾患治療における体外循環に用いる拍動流発生装置の開発—モニタシステムの開発—(杉山大輔、藤尾三紀夫、稲盛修二)	藤尾三紀夫

文部科学省原子力人材育成等推進事業/学術総合センター/2013.3.13~14

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
E5	松永信之介	放射線測定技術の習得とその理解を目的とした手引き書作りとその他沼津高専の取り組み状況について	西村賢治

日本機械学会 関東支部第19期総会講演会/首都大学東京 南大沢キャンパス/2013.3.15~16

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
DS2	金子裕哉	受信強度の指数減衰を考慮した流星バースト通信路モデルの検討(若林良二、亀井利久、椋本介士、三寺史夫、長澤正氏)	長澤正氏
D5	勝又健 坂本和彦	2点吊り振子の非線形連成振動解析(舟田敏雄、勝又健、坂本和彦、大庭勝久、青木悠祐、宮内太積)	舟田敏雄

日本機械学会東海学生会第44回学生会員卒業研究発表講演会/三重大学/2013.3.17

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
D5	安田昇平	熱線流速計の性能改善による適用流速域の拡大	大庭勝久

日本機械学会東海支部第62期総会・講演会/三重大学/2013.3.18~19

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
ME2	長谷川智洋	慣性ロータを用いた倒立振り子実験教材の開発	三谷祐一朗

電子情報通信学会 2013年総合大会/岐阜大学/2013.3.19~22

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
D5	勝又健 坂本和彦	技術者教育のための電子回路教材の改善: 拡張型 Bonhöffer-Van der Pol 方程式の数値解析例(望月孔二、舟田敏雄、川上誠、勝又健、坂本和彦、大庭勝久、青木悠祐、宮内太積)	舟田敏雄

平成25年電気学会全国大会/名古屋大学東山キャンパス/2013.3.20~22

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
E5	川口直輝	雷による磁気浮上式鉄道推進コイルへの誘導電圧(江間敏、ンジェホン)	江間敏
ME1	渡邊魁	触覚機能を有する物体把持システムの開発	山之内亘
D5	伊庭達哉	IPMSMの最大トルク制御座標系におけるトルク応答の評価(馬銅野祐貴、大沼巧)	大沼巧



平成24年度卒業生・修了生進路先一覧

機械工学科

36名

就職先企業

24名

JX日鉱日石エネルギー株式会社	1
Meiji Seika ファルマ株式会社	1
アステラス ファーマ テック株式会社	1
出光興産株式会社	2
オークマ株式会社	1
株式会社小松製作所	1
山九株式会社	1
サントリープロダクツ株式会社	1
新日鐵住金株式会社	1
水ing株式会社	1
大正製薬株式会社	1
第一三共プロファーマ株式会社	1
中外製薬工業株式会社	1
中部電力株式会社	1

東燃ゼネラル石油株式会社	2
株式会社ニコン	1
日本食品化工株式会社	1
日立建機株式会社	1
株式会社畠山製作所	1
富士乳業株式会社	1
三井造船株式会社	1
株式会社リコー	1

進学（編入学）先大学等

12名

千葉大学 工学部	4
横浜国立大学 理工学部	1
信州大学 工学部	1
豊橋技術科学大学 工学部	4
大阪大学 基礎工学部	1
東京工芸大学 工学部	1

電気電子工学科

39名

就職先企業

14名

Meiji Seika ファルマ株式会社	1
朝日電装株式会社	1
味の素株式会社	1
アステラス ファーマ テック株式会社	1
オカモト株式会社	1
小野薬品工業株式会社	1
サントリープロダクツ株式会社	1
第一三共プロファーマ株式会社	1
東急建設株式会社	1
株式会社東芝電力システム社	1
ドコモエンジニアリング東海株式会社	1
株式会社明電舎	1
株式会社ヤクルト本社富士裾野工場	1
ヤマハ株式会社	1

進学（編入学）先大学等

25名

千葉大学 工学部	2
筑波大学 理工学群	1
東京工業大学 工学部	1
東京農工大学 工学部	1
首都大学東京 システムデザイン学部	1
長岡技術科学大学 工学部	1
金沢大学 理工学部	1
信州大学 経済学部	1
福井大学 工学部	2
名古屋大学 工学部	1
豊橋技術科学大学 工学部	5
大阪大学 基礎工学部	1
愛媛大学 理学部	1
豊田工業大学 工学部	1
立命館大学 理工学部	1
沼津工業高等専門学校 専攻科	3
進学希望	1

電子制御工学科

38名

就職先企業

20名

ANAフライトラインテクノクス株式会社	1
出光興産株式会社	1
ウシオ電機株式会社	1
株式会社エヌ・ティ・ティ ネオメイト	1
トヨタ自動車東日本株式会社	1
キャノン株式会社	1
コンティネンタル・オートモーティブ株式会社	1
シンフォニアテクノロジー株式会社	1
ダイキン工業株式会社	1
中部電力株式会社	1

株式会社椿本チエイン	1
東海旅客鉄道株式会社	1
東レ株式会社	1
日本テトラパック株式会社	1
富士鋼業株式会社	1
富士ゼロックス静岡株式会社	1
明産株式会社	1
矢崎総業株式会社	1
株式会社ヤクルト本社富士裾野工場	1
ヤマハモーターエンジニアリング株式会社	1

進学（編入学）先大学等 18名

東京工業大学 工学部	1
電気通信大学 情報理工学部	1
信州大学 工学部	1
豊橋技術科学大学 工学部	3

大阪大学 工学部	1
明治大学 理工学部	1
沼津工業高等専門学校 専攻科	9
進学希望	1

制御情報工学科 37名**就職先企業 13名**

ASTI株式会社	1
CTCシステムサービス株式会社	1
株式会社アドヴィックス	1
株式会社エコム	1
キャノンマーケティングジャパン株式会社	1
スター精密株式会社	1
株式会社ティ・アイ・ディ	1
株式会社テクノサイト	1
株式会社東京ウエルズ	1
東芝機械株式会社	1
ネクストエナジー・アンド・リソース株式会社	1
株式会社ヤクルト本社富士裾野工場	1
藤枝市役所	1

進学（編入学）先大学等 24名

北海道大学 工学部	1
筑波大学 情報学群	2
千葉大学 工学部	1
東京農工大学 工学部	3
横浜国立大学 理工学部	1
長岡技術科学大学 工学部	1
福井大学 工学部	1
静岡大学 工学部	1
静岡大学 情報学部	1
名古屋大学 情報文化学部	1
豊橋技術科学大学 工学部	3
大阪大学 基礎工学部	1
高知大学 理学部	1
日本大学 理工学部	1
沼津工業高等専門学校 専攻科	4
進学希望	1

物質工学科 37名**就職先企業 19名**

アステラス ファーマ テック株式会社	1
イハラニッケイ化学工業株式会社	1
小野薬品工業株式会社	1
協和メデックス株式会社 富士工場	1
株式会社資生堂	1
シチズンセイミツ株式会社	1
シミックCMO株式会社	1
白石工業株式会社	1
株式会社ツムラ	1
ジェイカムアグリ株式会社	1
第一三共プロファーマ株式会社	1
ダイキン工業株式会社	1
中外製薬工業株式会社	1
東海部品工業株式会社	1
東レ株式会社	1
富士乳業株式会社	1

株式会社ボゾリサーチセンター 御殿場研究所	1
株式会社ヤクルト本社富士裾野工場	1
函南東部農業協同組合	1

進学（編入学）先大学等 18名

筑波大学 生命環境学群	2
東京農工大学 工学部	1
東京工業大学 工学部	1
東京工業大学 生命理工学部	1
東京海洋大学 海洋科学部	1
長岡技術科学大学 工学部	1
静岡大学 農学部	1
名古屋工業大学 工学部	1
豊橋技術科学大学 工学部	3
大阪大学 工学部	1
東海大学 理学部	1
沼津工業高等専門学校 専攻科	4

機械・電気システム工学専攻 13名**就職先企業 10名**

エムケーチーズ株式会社	1
株式会社小林製作所	1
株式会社小松製作所	1
東京エレクトロンFE株式会社	1
東京エレクトロンTS株式会社	1
東芝テック株式会社	1
東芝プラントシステム株式会社	1

日本テトラパック株式会社	1
株式会社富士セラミックス	1
株式会社明電舎	1

進学先等 3名

東京工業大学大学院	1
立命館大学大学院	1
豊橋技術科学大学大学院	1

制御・情報システム工学専攻

10名

就職先企業

5名

旭化成株式会社	1
セイコーエプソン株式会社	1
株式会社セガ	1
東芝キャリア株式会社	1
富士通株式会社	1

進学先等

5名

東京大学大学院	1
東京工業大学大学院	1
名古屋大学大学院	1
豊橋技術科学大学大学院	1
奈良先端科学技術大学院大学	1

応用物質工学専攻

3名

就職先企業

3名

旭化成株式会社	1
株式会社ソフテック	1
日本食品化工株式会社	1

教育後援会から

卒業に際して

教育後援会会長 西岡珠美

門出を迎えられる学生および保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。

また、先生方には学業ならびに生活面、精神面において一方ならないご指導、ご配慮をいただき、お蔭をもちまして無事卒業を迎える事が出来ますことを、保護者を代表して心から御礼申し上げます。

今年度は沼津工業高等専門学校創立50周年を迎えた節目の年となり、記念行事が盛大に執り行われました。この経験は、学生のみなさんの心に深く刻み込まれ、生涯のうちでも貴重な財産となったのではないのでしょうか。

私自身、学校の歴史に触れさせて頂き、伝統の重さや社会からの信頼の厚さを実感し、これからの沼津高専を考える、とてもいい機会となりました。

そして、とりまく環境の変化に伴い他高専に先駆けいち早く新教育課程を導入され、新しい第一歩を踏み出された事は、校長先生をはじめとする先生方、学校関係者

の皆様方の大変なご苦勞とご尽力の賜と感謝しております。

これから就職や進学と新しい生活を始められる学生のみなさんに、私がお伝えしたいことは、是非、自分の信じる道を自信をもって進んでいって欲しいということです。

自ら選んだ道ならば、辛い事や苦しい事、悲しみでさえも勇気をもって乗り越えていけると思うからです。

今まで、みなさんが経験してきた全てのことが自分を大きく成長させる為の大切な肥料となります。

そして、自分しか咲かせることのできない綺麗な花を堂々と咲かせていただきたいと思います。

最後に、私が大切にしている言葉をお祝いの言葉に代えさせていただきます。

「しあわせはいつも自分のこころがきめる」

高専で今まで頑張ってきたみなさんならきっと大丈夫!!

みなさんのしあわせを信じています。

卒業を迎えて

教育後援会副会長 中村 敦治

卒業生及び保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。

また、入学から今日まで並々ならぬご指導をいただいた柳下校長先生をはじめとした教職員の皆様及び学校関係者の皆様には深く感謝しております。

思い起こせば5年前、嵐のような天候で迎えた入学式、中学校を卒業したばかりの子供達が期待と不安を胸に、今までの生活を一変させる寮生活をスタートさせ、新たに多くの素晴らしい方々とめぐり合うことができた瞬間であったと思っております。

まだ、どの顔も幼さの残る子供であったのが、高専の充実した教育プログラムや自立性を重んじる寮生活などにより、自らが進んで考え、多くの掛け替えのない友とともに協調性を身に付けて、人として大きく成長した姿を見ると、充実した時間を過ごすことが出来た賜物であ

り、大変に喜ばしい限りでございます。

さて、卒業して就職する方、大学・専攻科に進学する方など進路は違いますが、最近の私たちを取り巻く環境は、少子・高齢化の進展や経済取引の一層の広域複雑化及び経済社会のグローバル化・高度情報化など大きく変化していることを特に感じております。

このような社会の中で、その一員としての役割を果たしていくため、弱冠20歳の皆様に卒業しても忘れないで欲しいことがあります。

それは、沼津高専の教育理念である「人柄の良い優秀な技術者となって、世の期待にこたえよ。」という言葉です。

社会に出ると、つらいこと、悲しいこと、苦しいこと

が数多く起こると思いますが、そんな時は、この言葉を思い出して、それを乗り越えてください。

人は、弱い生き物です。一人では生きていけません。皆様は、数多くの学友があり、そして50年に及ぶ沼津高専の卒業生とともにあります。

社会に出て環境が変わったとしても、高専生としてのプライドと自信を常に持って何事にも立ち向かってほしいと願っています。

最後に、新しい門出を迎えた卒業生の皆様のご活躍とご多幸を祈念して、また、沼津高専関係者の皆様のご健康とご多幸を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

事務部から

平成25年度前期分授業料の免除および徴収猶予について

経済的理由により授業料納付が困難で、学力優秀と認められる本科4・5年生および専攻科生の、平成25年度前期授業料免除および徴収猶予申請を受け付けています。申請方法は下記のとおりです。申請を希望する場合は学生課学生係へ書類を取りに来てください。

なお、本科1～3年生は原則として、「就学支援金」制度により助成が行われます。

記

申請方法 授業料免除申請書または授業料徴収猶予申請書（所定様式）を学生係へ提出する。

提出期限 平成25年3月29日(金)

※所定の様式がありますので、申請を希望する場合は、学生係へ書類を取りに来てください。

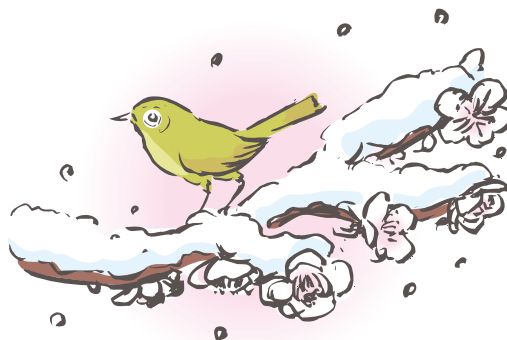
申請者には、後日学生係より、住民票、所得証明書等の必要書類提出について案内いたします。

※必要書類は、必ず学生係からの案内を確認の上、ご準備願います。

注意事項

1 平成24年10月1日以降に、懲戒処分（停学以上の処分）を受けた学生は免除の対象となりません。

2 ご不明な点がございましたら、学生課学生係（055-926-5734）にお問い合わせください。



行事予定表

平成25年

4月 入学式・入寮式
始業式・対面式・健康診断
1年生合宿研修

5月 防災訓練
寮祭
スポーツ大会・学生総会
後援会総会・保護者懇談会

6月 前期中間試験
平成26年度専攻科入学試験
東海地区高専体育大会

7月 1～4年生保護者懇談会

8月 前期末試験
一日体験入学
全国高専体育大会
平成26年度編入学試験

9月 寮生リーダー研修
2年生ミニ研究発表会

10月 4年生工場見学
中学生のための体験授業
東海北陸地区ロボコン大会
体育祭・学生総会
2年生特別研修

11月 高専祭・体験授業
文化講演会
東海北陸地区英語スピーチコンテスト
東海地区高専体育大会
授業参観・学科説明会
ロボコン全国大会
後期中間試験
テクノフォーラム

12月 3年生課外教育特別講演
4年生工学系数学統一試験
留学生交流会

平成26年

1月 全国高専体育大会
3年生学習到達度試験
3年生合宿研修
平成26年度推薦選抜入試

2月 学年末試験
平成26年度学力選抜入試
5年生卒業研究発表
寮生リーダー研修

3月 卒業式・修了式